

学生要覧別冊 2023

教職課程

日本語教員養成講座

FERRIS UNIVERSITY

目 次

教 職 課 程

教職課程カリキュラムマップ	4
教職課程年間スケジュール	5

1 年次オリエンテーション

教職課程とは	8
取得できる免許状の種類・教科	8
免許状取得に必要な費用	8
免許状を取得するには	8
免許状取得に必要な単位数	9
—教職に関する科目等	9
—CLA コア科目（教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目）	11
—学科専門科目等（教科に関する科目）	12
3年次進級の際の教職課程履修継続条件	13
教職履修カルテ	13
よくある質問 Q&A	14

2年次・3年次・4年次オリエンテーション

教育実習仮登録オリエンテーション《2年次中》	18
2年次・3年次の授業科目のクラス分け	18
教育実習をお願いする実習校訪問《2年次末の春休み中》	18
3年次進級の際の教職課程履修継続条件	19
内諾交渉《3年次の冒頭》	19
授業科目「教育実習」《3年次～4年次》	19
介護等体験《3年次中》	19
教職課程料の納入	20
実習校で実習するための条件《3年次修了まで》	20
実習校との手続きの流れ（内諾交渉～実習終了まで）	21
実習にあたっての準備《4年次》	22
実習校実習中の訪問指導	22
実習校実習実施における注意事項	23
教育実習簿	26
実習校実習を終えたら	27
授業科目「教職実践演習（中・高）」	27
教育職員免許状の取得	27

学科専門科目等（教科に関する科目）

教職課程・学部	43
取得できる免許状の種類・教科	44
教育職員免許法に定める単位数	44
「教職に関する科目等」に関する教育職員免許法施行規則と それへの本学の対応	45
他大学等で修得した単位の取り扱い	47

教職課程・大学院

取得できる免許状の種類・教科	50
基礎資格並びに最低修得単位数	50
単位の修得方法	50
教科に関する科目	51

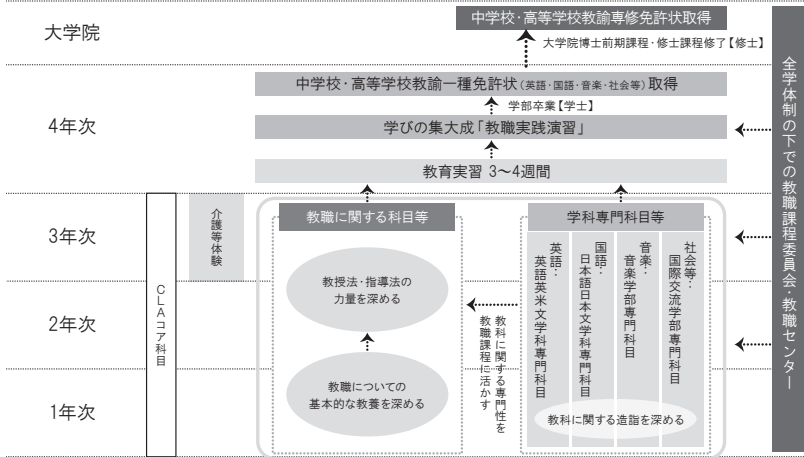
日本語教員養成講座

手続きスケジュール	56
ディプロマ・ポリシー	57
講座の課程	57
カリキュラム	58
日本語教員養成講座履修カリキュラムマップ	59
講座受講の手続き	67
大学院科目の専修課程単位算入	68
講座の単位認定	69
日本語教育の主要事項と対応科目	70
養成講座 I・II 群時間割	71
よくある質問 Q&A	72
年度・学科別修了者数	75
日本語教育実習1, 2	76
「日本語教育実習」受入協定校と推薦について	76
校外実習の注意事項、選抜順位	77
「日本語教育校外実習」希望届	77
地域日本語教育実習、年少者日本語教育実習	78
日本語教員養成講座への問い合わせ	78

教職課程

教職課程カリキュラムマップ

本学の教育理念“For Others”に示される、他者のために、そして他者とともにという観点に立ち、幅広い教養と専門的な知識によって教育活動を実践することのできる教員を養成することを目的とします。



4年間の教職履修イメージ

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
CLA コア科目	1年次～3年次の間に全て単位修得する。							
学科専門科目等	1年次～3年次の間に全て単位修得する。							
教職に関する科目等	「教育心理学」 「教育社会学」		「教育課程論」 「道徳教育の理論と実践」 「特別支援教育の基礎と方法」※1		「教科教育法Ⅰ」 「教育実習Ⅰ」 「教科教育法Ⅱ」		「教育実習Ⅱ・Ⅲ」 「教職実践演習(中・高)」	
授業外の実習関係	「教育原理」 または 「教育思想」				「特別活動」 「生徒・進路指導の理論と方法」 「教育相談」教育方法・技術 ^{※2} / 教育の方法・技術(情報通信技術の活用含む) ^{※3} 「総合的な学習の時間の指導法」※1		「教育実習2・3」 (通年科目)	
満たさなければならぬ成績・資格	介護等体験				実習校での教育実習 3週間または4週間(出校15日間、120時間以上)			
	(全教科) ①2年次後期 GPAが1.31以上 ②2年次後期までの累積 GPAが1.31以上 ③2年次修了までに日本語検定3級を取得 (英語科) 2年次修了までに実用英語技能検定2級以上 ^{※4} / TOEIC [®] 520点以上 / TOEFL iBT [®] 57点以上 ^{※5} / IELTS 4.5以上のいずれかを取得				累積でも半期でも GPA1.31以上を保つこと。			

なお、1年次に「教職入門」、「教育原理」または「教育思想」、「教育心理学」、「教育社会学」の4科目の合計8単位を修得した者に限り、通常3年次に履修する「教職に関する科目」の一部を2年次に履修することができます。(p.10)

- ※1 2019年度以降入学者
- ※2 2021年度以前入学者
- ※3 2022年度以降入学者
- ※4 英検 S-CBT、英検 CBT を含む。
- ※5 MyBest scores も利用可

2023年度 教職課程年間スケジュール

※スケジュールは変動することがあります。
全てのオリエンテーションに参加すること。

1年次	4月	教職課程オリエンテーション 教職課程に関わる履修開始
2年次	4月	教職2年次オリエンテーション
	11月	教育実習仮登録オリエンテーション
	1月	介護等体験仮登録オリエンテーション
	春休み	教育実習をお願いする実習校訪問
3年次	4月	教職3年次オリエンテーション 介護等体験申込み
	5月	介護等体験事前指導
	6月	教育実習校決定 介護等体験開始
	9月	教育実習事前指導1開始
	10月	教職課程料納入 授業参観オリエンテーション 中学校・高等学校授業参観開始
	11月	横浜市教員採用試験ガイダンス
	12月	神奈川県教員採用試験ガイダンス
4年次	4月	教職4年次オリエンテーション 教育実習参加書類の提出 教職課程料納入 教育実習事前指導2開始
	6月	教育実習校実習開始 教育実習事後指導（グループ別）開始
	7月	[-教員採用試験-]
	9月	「教職実践演習（中・高）」開始
	10月	教育職員免許状一括申請手続き説明会（9月～10月開催予定）
	12月	教育実習事後指導（教科別）開始
	3月 学位授与式当日	教育職員免許状取得

1 年次オリエンテーション

1

教職課程とは

学校の教員になるためには、原則として教育職員免許状（以下、免許状）を取得していなければなりません。本学では、将来教員となる強い熱意を持ち、免許状を取得しようとする人のために、「教職課程」を開設しています。

教職課程とは、免許状を取得するために、教育職員免許法等に定められた授業科目の単位を修得する課程です。

下記「4 免許状を取得するには」記載のとおり、免許状取得のためには、教育実習ならびに介護等体験が必要であり、これらの実習は大学以外の学校及び施設で実施されます。さらに、卒業要件単位に含まれない多くの授業科目の単位を修得しなければならないため、専門科目の履修や就職活動等に大きな影響を及ぼすことが考えられます。それらを充分認識したうえで、自覚を持って早い段階から計画的に授業科目の履修を進めることが求められます。

2

取得できる免許状の種類・教科

本学では、原則として中学校と高等学校両方の免許状を取得するよう指導しています。中・高両方の免許状を持っていないと採用試験が受けられない地方自治体や中高一貫校が増えているからです。

中学校の英語・国語・社会・音楽、高等学校の英語・国語・地理歴史・公民・音楽の免許状が取得できます。社会の免許状を考えている人は、高校の「地理歴史」と「公民」の両方の免許状を取得するよう努力してください。一方しか教えられないと教員採用の際に不利になると考えられるからです。

【→p.44 取得できる免許状の種類・教科】

3

免許状取得に必要な費用

教職課程を履修するには課程料や諸経費が必要です。免許状取得までにかかる費用については次の表を参考にしてください。納入方法、時期、手続きの詳細はオリエンテーション等で説明します。

なお、各授業科目で使用するテキスト代等は別途必要になります。

目 的	納 入 額
介護等体験費	10,475円
保険加入料 (210円×2回分 介護等体験時及び教育実習時)	420円
教職課程料 (3年次)	10,000円
教職課程料 (4年次)	20,000円
教育実習費 (実習校によって異なる)	約15,000円
免許状申請手数料 (1教科あたり) (4年次)	7,000円
合 計	約62,895円

4

免許状を取得するには

免許状取得を希望する学生は、卒業に必要な単位 (124単位) のほかに、以下⑤～⑦ (pp.9～12) に示す教育職員免許法等に定められた教職に必要な授業科目を履修して単位を修得することが必要です。

さらに、実際に教壇に立つ4年次の教育実習 (3週間～4週間、出校15日間、120時間以上) と3年次の福祉施設等で行う介護等体験 (7日間) も必要です。

5

免許状取得に必要な単位数－教職に関する科目等

2022年度以降入学者

() は単位数

1年次	2年次	3年次	4年次
教職入門 (2)			
教育原理 (2)			
教育思想 (2)			
教育社会学 (2)			
教育心理学 (2)			
	特別支援教育の基礎と方法 (1)		
	教育課程論 (2)		
	道徳教育の理論と実践 (2)		
		英語科教育法Ⅰ (4)	
		英語科教育法Ⅱ (4)	
		国語科教育法Ⅰ (4)	
		国語科教育法Ⅱ (4)	
		社会・地理歴史科教育法Ⅰ (2)	
		社会・地理歴史科教育法Ⅱ (2)	
		社会・公民科教育法Ⅰ (2)	
		社会・公民科教育法Ⅱ (2)	
		音楽科教育法Ⅰ (4)	
		音楽科教育法Ⅱ (4)	
	総合的な学習の時間の指導法※ (1)	総合的な学習の時間の指導法 (1)	
	特別活動※ (2)	特別活動 (2)	
	教育の方法・技術 (2)	教育の方法・技術 (2)	
	(情報通信技術の活用含む) ※	(情報通信技術の活用含む)	
	生徒・進路指導の理論と方法※ (2)	生徒・進路指導の理論と方法 (2)	
	教育相談※ (2)	教育相談 (2)	
		教育実習1 (1)	
			教育実習2 (2)
			教育実習3 (2)
			教職実践演習(中・高) (2)

教科教育法の履修の仕方については、「教科ごとに履修すべき教科教育法」(p.11)を参照すること。

2019～2021年度入学者

() は単位数

1年次	2年次	3年次	4年次
教職入門 (2)			
教育原理 (2)			
教育思想 (2)			
教育社会学 (2)			
教育心理学 (2)			
	特別支援教育の基礎と方法 (1)		
	教育課程論 (2)		
	道徳教育の理論と実践 (2)		
		英語科教育法Ⅰ (4)	
		英語科教育法Ⅱ (4)	
		国語科教育法Ⅰ (4)	
		国語科教育法Ⅱ (4)	
		社会・地理歴史科教育法Ⅰ (2)	
		社会・地理歴史科教育法Ⅱ (2)	
		社会・公民科教育法Ⅰ (2)	
		社会・公民科教育法Ⅱ (2)	
		音楽科教育法Ⅰ (4)	
		音楽科教育法Ⅱ (4)	
	総合的な学習の時間の指導法※ (1)	総合的な学習の時間の指導法 (1)	
	特別活動※ (2)	特別活動 (2)	
	教育方法・技術※ (2)	教育方法・技術 (2)	
	生徒・進路指導の理論と方法※ (2)	生徒・進路指導の理論と方法 (2)	
	教育相談※ (2)	教育相談 (2)	
		教育実習1 (1)	
			教育実習2 (2)
			教育実習3 (2)
			教職実践演習(中・高) (2)

教科教育法の履修の仕方については、「教科ごとに履修すべき教科教育法」(p.11)を参照すること。

2018年度以前入学者

2022年度学生要覧を参照してください。

履修の順序

p.9の表にしたがって、各年次・学期に計画的に履修すること。

卒業要件に算入される科目

「教職に関する科目等」には、卒業に必要な単位（卒業要件）として算入される科目と、算入されない科目があります。

p.9の表のうち、算入されるのは、「教育原理」、「教育思想」、「教育心理学」、「教育社会学」のみです。その他の科目は、免許状取得のためには必修ですが、卒業要件には算入されません。

2019年度以降入学者

「教育原理」「教育思想」「教育心理学」「教育社会学」（教職課程の選択Ⅱ－A群）の内、修得した単位は、「修得済単位」の合計欄に自動加算されています。

2018年度以前入学者

2022年度学生要覧を参照してください。

「教育心理学」と「教育社会学」のクラス分け

次のとおり学部によって履修する授業科目が前・後期で変わります。これに従って履修をしてください。

学部	前期	後期
文学部	教育社会学	教育心理学
音楽学部・国際交流学部	教育心理学	教育社会学

「特別活動」「教育方法・技術／教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）」「生徒・進路指導の理論と方法」「教育相談」「総合的な学習の時間の指導法」の2年次開放

前ページの表のうち、※のついた「特別活動」「教育方法・技術／教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）」「生徒・進路指導の理論と方法」「教育相談」「総合的な学習の時間の指導法」の標準的な履修年次は3年次ですが、下記の条件を満たす者は、2年次での履修を希望することができます。

2年次での履修を希望できる条件	「教職入門」、「教育原理」または「教育思想」、「教育心理学」、「教育社会学」の4科目を履修し、1年次中に合計8単位を修得していること。 なお、条件に該当しない者は、3年次に履修すること。
手続き	2年次4月のオリエンテーションで手続きをします。
開放される科目	年度によって変わります。
履修許可される科目数	原則として1人1科目

教科ごとに履修すべき教科教育法

教科	科目名	
英語（中学校・高等学校共通）	「英語科教育法Ⅰ」	「英語科教育法Ⅱ」
国語（中学校・高等学校共通）	「国語科教育法Ⅰ」	「国語科教育法Ⅱ」
社会・地理歴史・公民 （中学校・高等学校共通）	「社会・地理歴史科教育法Ⅰ」 「社会・公民科教育法Ⅰ」	「社会・地理歴史科教育法Ⅱ」 「社会・公民科教育法Ⅱ」
音楽（中学校・高等学校共通）	「音楽科教育法Ⅰ」	「音楽科教育法Ⅱ」

6

免許状取得に必要な単位数－CLA コア科目（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）

下記の最低修得単位数を原則として3年次修了までに修得済みであることが必要です。

（ ）内は単位数、●は教職必修科目

教育職員免許法 施行規則第66条の 6に定める科目区分	最低修得単位数		本学で対応する開講科目
	中学校	高等学校	
日本国憲法	2		●「日本国憲法」 (2)
体育	2		●「スポーツ実習」 (1) 「健康・スポーツ論」 (2)
外国語 コミュニケーション	2		次の科目を除くすべての語学科目 ・初習外国語「〇〇語（文法）」、「イタリア語（文法）」 「海外語学実習（〇〇語）」 ・古典ギリシア語、ラテン語、日本語 ・英語選択科目（「英語e（〇〇）」科目）
情報機器の操作	2		●「情報リテラシー」 (2) …2018年度以前開講科目 ●「情報リテラシー基礎」 (2) …2019～2022年度開講科目 ●「情報リテラシー応用」 (2) …2019～2022年度開講科目 ●「情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門」…2023年度以降開講科目 ●「情報リテラシー：データサイエンス入門」 …2023年度以降開講科目 ※いずれかの単位を修得すること

「体育」履修上の注意

- ① 「体育」で修得すべき2単位のうち、1単位分は「スポーツ実習」（1単位）を必修とします。不足するもう1単位分については、「スポーツ実習」「健康・スポーツ論」のいずれかを修得しなければなりません。
- ② 「体育」で修得すべき2単位を、講義科目の「健康・スポーツ論」だけで満たすことはできません。

7

免許状取得に必要な単位数－学科専門科目等（教科に関する科目）

中学校と高等学校の免許状取得に必要な単位数は異なりますが、pp.30～41を参照しながら、下の表に指示された単位を原則として3年次修了までに修得すれば両方の免許状を取得できます。

2019年度以降入学者

教科	履修方法
英語	●教職必修科目を含めて、28単位を修得。
国語	中学校の免許状取得には「書道」が必修になります。 「書道A」（1単位）または「書道B」（1単位）を必ず履修してください。 それ以外に●教職必修科目を含めて、28単位を修得。
社会（中学）＋地理歴史（高校） ＋公民（高校）※	地理歴史（高校）から●教職必修科目を含めて28単位と、 公民（高校）から●教職必修科目を含めて28単位を修得。
音楽	●教職必修科目を含めて、28単位を修得。

※社会の免許状を希望する場合、高校の「地理歴史」と「公民」の両方の免許状を取得してください。

2018年度以前入学者

2022年度学生要覧を参照してください。

履修科目のチェック方法

学期ごとに最新の成績通知と照合しながら、pp.30～41の科目表の修得した科目（単位数）の箇所にマーカーで印をつけていくと、履修もれ・単位数の計算ミスを防ぐことができます。各自でしっかり管理しましょう！

8

3年次進級の際の教職課程履修継続条件

次のいずれかに該当する者は、原則として3年次以降の教職課程の履修を認めません。

- ① 2年次後期 GPA が1.30以下の者
- ② 2年次後期までの累積 GPA が1.30以下の者

また、下記のとおり3年次になる際の教職課程の履修条件を定めます。早めに受検して条件を満たしておいてください。

対象	条件
(教科に関わらず) 全員	2年次修了までに日本語検定3級以上を取得していること(準3級ではない)
英語の免許状取得を希望する者	2年次修了までに次の基準のいずれかを満たすこと 実用英語技能検定2級以上(英検 S-CBT、英検 CBTを含む。) / TOEIC® 520点以上 / TOEFL iBT® 57点以上 / IELTS 4.5以上

※日本語検定の詳細については、日本語検定の公式 web サイトを確認し、各自で受検してください。なお、日本語検定の試験は年2回(例年6月と11月)のみなので、受検申込を怠らないように注意してください。

※ TOEIC® については、公開テストで取得したスコアに限ります(TOEIC-IP テストは対象外です)。

※ TOEFL iBT® については、MyBest scores も利用可とします。

9

教職履修カルテ：自身の学びの管理

「教職履修カルテ」には免許状の取得に必要な科目の修得状況のほか、教職課程履修上の課題や課題達成状況などを記入します。

FerrisPassport 掲示(授業関連)からダウンロードできます。履修した科目などについて年度ごとに継続的に記入してください。

日本語検定や英語の検定とともに、下記のような準備について計画を立て、「教職履修カルテ」の【4年次の教育実習・教員採用試験受験に向けて取り組むこと】のページに今から書いておいてください。

国語	漢字検定を受ける。 国語の教科書に載っている文学作品等の全文を可能な限り多く読んでおく。
社会 地理 歴史 公民	中学校、高等学校の教科書を熟読しておく。
音楽	中学校、高等学校での教育実習でピアノ伴奏がスムーズにできるように、音楽学部でのピアノ伴奏の科目を履修するなど、ピアノ演奏の技能を高めておく。

中学校・高等学校の教科書は7号館3階の教職センターに揃えています。

- Q. 教職課程に興味はありますが、やっていけるか不安です。
- A. 1年次生で履修する「教職に関する科目」は、「教職入門」、「教育原理」または「教育思想」、「教育社会学」、「教育心理学」の4科目のみです。そのうち、「教育原理」「教育思想」「教育社会学」「教育心理学」は、卒業に必要な124単位にも含まれますから、履修して修得した単位は無駄にはなりません。まずは、1年次生でこれらの科目を履修しながら検討してみたいかがでしょう。
- Q. 複数の教科の免許状を取得することはできますか？
- A. 過去にも、英語と音楽、社会と英語など複数の免許状を取得した人はいます。しかし、それぞれの教科の「免許状取得に必要な学科専門科目等（教科に関する科目）」をすべて修得しなければなりません。また、取得希望のすべての教科の「教科教育法」も修得しなければなりません。したがって、1年次前期から24単位ずつ、さらになるべく早くから成績優秀学生となって28単位ずつ履修し、計画的に教職に必要な単位を修得し続けないと困難です。
- Q. 語学のインテンシブ・コースや日本語教員養成講座との両立は可能ですか？
- A. 毎年、インテンシブ・コースや日本語教員養成講座を修了し、免許状を取得する学生はいます。教職に関する科目と語学科目の時間割はなるべく重ならないように設定されています。免許状取得者のうち、インテンシブ・コース修了者、日本語教員養成講座修了者の数は次のとおりです。

2022年度実績

	インテンシブ・コース						日本語教員		
	英語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	中国語	朝鮮語	専修	主専攻	副専攻
英語	9	-	-	-	1	-	1	1	0
国語	-	-	-	-	-	1			
社会	1	-	-	-	-	-			
音楽	2	1	1	-	-	-			

2021年度実績

	インテンシブ・コース						日本語教員		
	英語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	中国語	朝鮮語	専修	主専攻	副専攻
英語	7	-	-	-	-	-	-	-	-
国語	-	-	-	1	-	-			
社会	-	-	-	-	1	-			
音楽	-	-	-	-	-	-			

- Q. 教育実習と就職活動を両立することは可能ですか？
- A. 教育実習は主に4年次の6月頃に行われます。基本的には、教員になることを前提に教育実習に行くものなので、就職活動を理由に教育実習を欠席することは認められません。両立を目指すことを妨げませんが、スケジュールが重なった場合は、自己責任において、いずれかの道を選択せざるを得ないこともあるので、よく考えてください。

Q. 留学したいのですが、卒業するまでの4年間で免許状を取ることはできますか？

A. 以下の通り、留学する時期によって状況が異なります。

留学が具体化してきた段階で、必ず教職センターへ相談してください。

①セメスター・アプロードで3年次前期までに留学が終了する場合／交換留学・認定留学等で2年次までに留学が終了する場合

・卒業までの4年間で免許状を取得することは可能です。

②①に該当しない場合

・卒業を延期する、卒業後も本学科目等履修生として教職課程を履修を継続する、卒業後に他大学で単位取得する等のいずれかの方法であれば、免許状を取得することは可能です。

Q. 小学校教員免許状も取りたいのですが、どうしたらいいでしょうか？

A. 大学卒業後に、通信教育で免許状取得が可能です。そのような大学は全国にあります。ご参考までに、東京都、神奈川県下の場合は次のとおりです。

玉川大学、創価大学、明星大学、東京未来大学、東京福祉大学、武蔵野大学、星槎大学
各自で問い合わせてください。

この他に、20歳以上になれば教員資格認定試験で免許状を取得する道や、大学卒業後に3年制の大学院で免許状を取得できます。各自で調べてください。

Q. 司書教諭免許状も取りたいのですが、どうしたらいいでしょうか？

A. 教職課程を履修しながら大学に2年以上在学して62単位以上を修得した学生は、夏休みなどに「学校図書館司書教諭講習」を開催している大学が各地にあるので、そこで所定の5科目10単位を取得すれば可能です。詳しくは文部科学省の公式 web サイトなどで確認してください。

Q. 「教科に関する科目」の「履修上の注意」に「A、Bの履修ルールについては、「シラバス」に記載のとおりとします」とありますが、これはどういう意味ですか？

A. 「教科に関する科目」の表でA、Bのいずれか1科目を●必修としている場合、免許状取得のために必修なのはA,Bどちらか片方のみです。

ただし、授業科目担当者がシラバスで「Bの履修にあたっては、Aを履修済みであることが望ましい」等と指定している場合には、その指示に従ってください、という意味です。

この他、わからないこと、不安なことがあったら、早めに教職センター、教務課できちんと確認し、解決するように心がけましょう。

2年次・3年次・4年次オリエンテーション

※3年次後期の「教育実習1」、4年次前期の「教育実習2」の初回授業にこの冊子を必ず持参すること。

1

教育実習仮登録オリエンテーション《2年次11月》

2年生の秋には、教育実習仮登録オリエンテーションがあります。それまでに教職課程履修を継続するかどうよく考えておいてください。

他に開催される各説明会・オリエンテーションにも必ず出席してください。大事な情報をお伝えし、重要な書類を配布します。

やむを得ない事情で欠席しなければならない場合は、必ず事前に教職センターまたは教務課に連絡してください。

【→p.5 2023年度教職課程年間スケジュール】

2

2年次・3年次の授業科目のクラス分け

次のとおり希望する免許状の教科によって履修する一部授業科目が前・後期で変わります。これに従って履修してください。

【2年次】

教科	前期	後期
英語、国語	教育課程論	道徳教育の理論と実践
		特別支援教育の基礎と方法（集中講義）
音楽、社会	道徳教育の理論と実践	教育課程論
	特別支援教育の基礎と方法（集中講義）	

【3年次】

教科	前期	後期
英語、国語	特別活動	生徒・進路指導の理論と方法
		教育相談
	教育方法・技術（2021年度以前入学者） 教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）（2022年度以降入学者）	総合的な学習の時間の指導法（集中講義）
音楽、社会	生徒・進路指導の理論と方法	特別活動
	教育相談	
	総合的な学習の時間の指導法（集中講義）	教育方法・技術（2021年度以前入学者） 教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）（2022年度以降入学者）

なお、上記のクラス分けに従って履修出来ない理由がある場合には、必ず教職センターへ連絡してください。

3

教育実習をお願いする実習校訪問《2年次末の春休み中》

教育実習を行う学校について

- ・実習希望者は、出身中学校または高等学校を訪問し、教育実習受入れのお願いをしてください。
- ・横浜市立中学校または東京都内の公立学校での教育実習を希望する場合には、教育委員会への申請が必要となります。希望する場合には、教職センターへ申し出てください。また、一部の地方自治体でも内諾を得た後に教育委員会への申請が必要となる場合があります。
- ・出身校であっても、教育実習を受け入れていない学校もあります。出身の中学校・高等学校の両方から断られた場合には教職センターへ速やかに相談してください。

3週間または4週間（出校15日間、120時間以上）の実習が行えるかを必ず確認してください。

実習校実習は、受入校が指定する日程で実施することになります。4年次5～6月ごろの3週間または4週間（出校15日間、120時間以上）の場合が多いものの、実習校の年間行事計画等の都合により、この期間外の場合もあります。また、学校行事への参加などを求める実習校もあります。

4

3年次進級の際の教職課程履修継続条件

p.13を参照してください。

5

内諾交渉 << 3年次の冒頭 >>

教育実習を引き受けてくださる学校が決まったら、正式な内諾交渉の始まりです。4月初旬の3年次オリエンテーションの際に教務課から配布される教育実習関係書類を実習校に持参してください。実習先が遠方の場合には、郵送してもよいか実習校に伺い、許可が出たら郵送してください。

受入校には実習生を受け入れる義務はありませんが、将来教職に就く人のために厚意と使命感によって、指導を行ってくださいます。したがって、実習校の内諾を受けた後、個人的理由で実習を辞退することは原則としてできません。辞退は大学に対する社会的信用を失うものであり、後輩の受け入れにも影響します。

6

授業科目「教育実習」 << 3年次～4年次 >>

「教育実習1」(事前指導・授業参観:1単位)を3年次後期に、「教育実習2」(事前指導・実習校実習・事後指導:2単位)、「教育実習3」(事前指導・実習校実習・事後指導:2単位)を4年次前・後期に履修します。

「教育実習1」「教育実習2」の欠席は原則として認めません。やむを得ない事情(学生要覧記載の追試験許可理由に準ずる)で欠席する場合には、教職センターに必ず事前に届けてください。

「教育実習1」の一環である授業参観は特に大切なものであり、中学・高校の2校(教科によっては小学校も含む)の参観が必須です。日程が決まり次第知らせますので、予定しておいてください。

7

介護等体験 << 3年次中 >>

介護等体験とは、「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めること」「人の心の痛みがわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現」といった介護等体験特例法の趣旨により、免許状取得希望者が、対象となる施設で「介護、介助等の体験」を行うものです。

社会福祉施設で5日間、特別支援学校等で2日間の計7日間の体験を行うことになっています。

介護等体験の実施方法等については、介護等体験オリエンテーションで詳しく説明しますので、必ず出席してください。また、費用等については「免許状取得に必要な費用」(p.8)を参照すること。

8

教職課程料の納入

教職課程履修者は、3年次及び4年次に教職課程料を納入しなければなりません。
なお、一度納入された教職課程料は返還できません。

納入方法：銀行振込（詳細は別途指示します）

	納入額	納入期限
3年次（「教育実習1」履修者）	10,000円	2023年10月11日（水）
4年次（「教育実習2,3」履修者）	20,000円	2023年5月10日（水）

「教育実習1,2,3」は、実際の教育現場を知るために、現職の先生、近隣の学校や教育実習校等のご協力を得て成り立っています。また、免許状を取得するために必要な文部科学省や教育委員会等への様々な手続きを大学が一括して行っています。教職課程料は、そのような教職課程の円滑な運営のために使用しています。

9

実習校で実習するための条件《3年次修了まで》

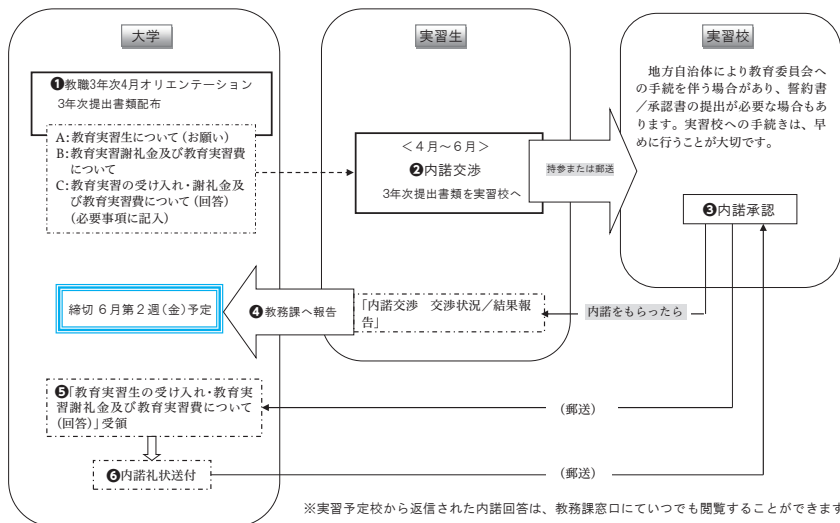
実習校で実習するためには、「教育実習2」「教育実習3」を履修しているとともに、原則として3年次修了までに「教育実習2」「教育実習3」「教職実践演習（中・高）」を除く、免許状取得に必要なすべての単位（教職に関する科目等、CLAコア科目、学科専門科目等）を修得済みであることが必要です。

【→p.9 教職に関する科目等】

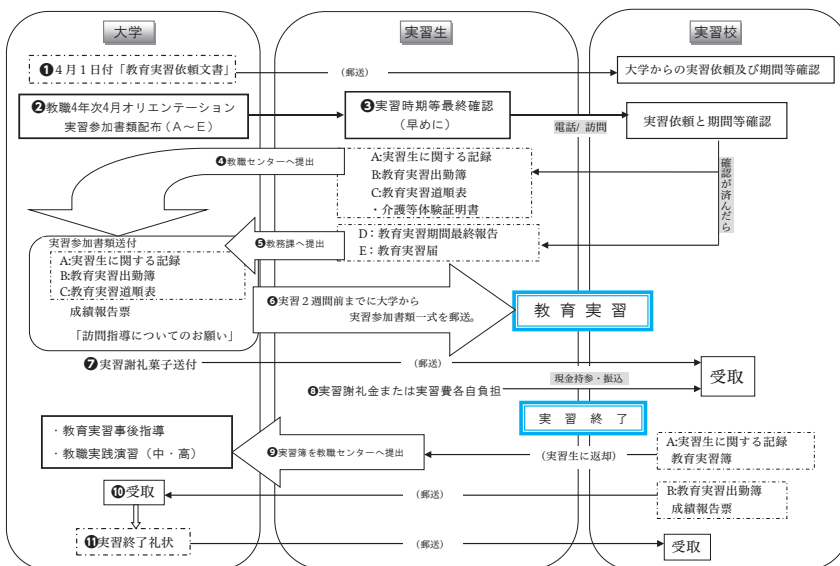
【→p.11 CLAコア科目(教職免許法施行規則第66条の6に定める科目)】

【→pp.30~41 学科専門科目等(教科に関する科目)】

3年次



4年次



実習校実習は実習生にとって、それまで教職課程で学んだ力を総合的に試す機会であり、また教員としての最初のステップともなる重要な経験です。同時にその3週間または4週間（出校15日間、120時間以上）は、実習校にとっても、中・高の生徒にとってもかけがえのない時間です。教育実習の意義をよく理解し、事前に周到な準備と研究をしたうえで、積極的に情熱をもって実習に臨むことが実習生の責務です。

11

実習にあたっての準備《4年次》

1. 実習期間の確認

2. 実習校との連絡

実習前（学期はじめ）に実習校に連絡し、実習校での事前指導の日時を確認するとともに、以下の点を調べておいてください。

教職員の指導組織・校務分掌

勤務心得

学校の教育方針

生徒の実態

学級の組織

地域の状況

3. 実習内容の準備

期間中実習に専念できるように、事前に準備を整えておいてください。

教材研究

教材・教具の準備

服装

健康

4. 実習校での事前指導

当日は時間厳守（上履き、メモ用ノート、筆記用具、印鑑を持参する）

校長、副校長、実習指導教諭、教科指導教諭への自己紹介

指導教諭との打ち合わせ

指導計画

教科書

教材研究・特に必要な教材の準備

実習校のICT環境

12

実習校実習中の訪問指導

実習校での教育実習は、本学における「教職に関する科目」の1つです。したがって、実習期間中に、本学の専任教員が訪問指導を行います。ただし、遠方の場合は、訪問指導がないこともあります。

訪問指導の教員については、4月初旬の4年次オリエンテーションにて発表します。

実習生は訪問指導の教員を確認したら、実習に参加する前に至急訪問指導の教員と連絡をとり、自己紹介、実習校・交通手段の確認、訪問指導日等実習に関する情報を必ず知らせてください。

事前に訪問指導の教員の元に挨拶に行かない学生がいるようですが、これらのことも教育実習の一環として、また礼儀として必ず実行してください。

3週間または4週間（出校15日間、120時間以上）の教育実習を有意義なものにするため、以下に述べる諸注意を守り、目的意識を持って参加してください。

1. 実習校実習にあたっての心構え

- (1) 実習校の教育活動の妨げになることのないように、何事にも言動に責任をもって実習にあたってください。
- (2) 実習校の先生方には多忙な校務の中を指導して頂くことを認識して、すべての教職員の方々に敬意と礼節をもって接し、謙虚に学んでください。
- (3) 生徒に対しては親しみをもって接し、生徒理解に努めるとともに、服装・態度・言葉づかいを常に意識し、生徒の範となるように心がけてください。

2. 勤務上の心得

- (1) 実習生は実習期間中、実習校の経営方針に従い、学校長の指導に従わなければなりません。
- (2) 朝は早めに登校し、直ちに出勤簿に捺印してください。
実習生控え室の掃除や整頓を行い、担当するホーム・ルームを見まわってください。
- (3) 欠席しないことが原則ですが、病気その他やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に実習校及び大学に連絡し、後に学校長宛に欠席届を提出してください。
- (4) 授業にあたっては、はじまりと終わりの時刻を正しく守ってください。
- (5) 教材研究に励み、学習指導案を早めに指導教諭に提出し、指導を受けてください。
- (6) 実習校の施設・設備品は、所管者の許可を得てから使用し、後始末をきちんとしてください。
- (7) 担当した仕事は迅速に的確に行ってください。また、進んで仕事を行ってください。ただし、独断で処理せず、不明な点は指導教諭の指示を仰いでください。事後報告を忘れないようにしてください。
- (8) なるべく多くの機会に指導教諭の批評・指導を受け、また、実習生間の相互批評を行ってください。
- (9) 生徒になるべく多く接し、生徒理解に努めてください（ホームルーム、昼食時、昼休み時間、掃除、クラブ活動など）。
- (10) 実習生だけで無断で校外指導を絶対にしないでください。
- (11) 学校外の機関との連絡は、すべて指導教諭を経て手続きをして行わなくてはなりません。

3. 教育実習の内容

観察・参加・授業実習という活動

教育実習という言葉からほとんどの実習生がまず想像することは、教室で黒板を背にして授業をしている姿でしょう。たしかに、教科についての学習指導が学校教育の中心であることは間違いありません。しかし、それ以外に教育課程のうえで各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導が必要です。さらに学校内での職務の分担があり、その他学校内外の研修、家庭との連絡、学校事務、そして地域との関わりなど、授業以外にも教員の仕事は多くあります。実習の形態は観察、参加、授業実習という3つの活動に分けられます。

観察は、教員の教育活動を観察することによって学習する方法です。実習生は教育活動には直接関わらず、もし質問などがあつたとしてもその場では行いません。できるだけその教員の邪魔にならないことを心がけて観察してください。

次に参加は、教員の行う活動に実習生も加わって同じ行動をとり、あるいはその一部を分担して行うことによる学習です。ここでは実習生も教育活動に加わりますが、あくまでも補助的立場として加わることになります。したがって通常の一斉学習による授業においては、参加という形はとりにくいですが、個別学習の多い実験や実技を伴う授業は部分的な指導の分担により参加しやすいものといえます。さらに学級

指導やクラブ活動、学校行事などに参加することは多くあります。

3つめの授業実習は、指導の責任を委任されて実際の授業を行う活動です。したがって、自分で指導計画を立て、指導を実施します。

望ましい教育実習の過程としては、まず観察、次いで参加、そして授業実習といった順序になります。しかし、学校によって観察と参加の区別を特にしない場合もあり、また実習期間の初期の段階で授業実習をすすめられる場合もあります。実際の教育実習においては、実習生それぞれに指導教諭がつき、個別に指導が行われるので、実習生は担当の指導教諭を中心に観察、参加、授業実習を実施することになります。

次にこれら3つの活動について詳しく説明します。

(1) 観察

観察は実習に至る過程の第1段階であるとともに、それを通して学校教育を総合的に理解し学習する方法です。したがってほとんどすべての学校教育場面がその対象になり得ます。

観察の主な対象は次のようなものがあります。

- a. 学校環境とその影響：校舎、施設、周辺環境、位置など
- b. 学級：教室の状況（設備、整理、掲示など）、生徒の状況（出席状況、雰囲気、態度、生徒間の交友関係など）
- c. 教室外の活動：登校時・下校時の状況、休み時間、遊びの種類など
- d. 学習指導：教師の活動（準備、指導態度、指導形態、指導法、指導の技術、評価のしかたなど）、生徒の活動（学習形態や態度、教師との関係、質問、ノートの書き方など）
- e. 特別活動：学級活動（高校はホームルーム活動）、生徒会活動、クラブ活動、学校行事など
- f. 学校経営：内容、組織、研修など

授業のみならず観察をしたものについては記録をとってください。観察の記録のしかたは種々ありますが、通常はノートにメモをして、後に実習簿に記入するとよいでしょう。大切なことは何を観察するか、具体的な観察事項の目標をさだめることです。一度に多くのことを観察するのは難しいためです。

(2) 参加

参加は教員の活動に参加することですので、対象になるのは教員の活動に限定されます。主要な参加対象には次のようなものがあります。

- a. 学習指導：準備、教材教具の整備、授業、調査など
- b. 生徒指導：準備、組織、計画、進路、学習について
- c. 特別活動や学校事務：生徒会活動、クラブ活動、学校行事など

参加は、学級においてほとんど指導教諭について行うことになりますので、指導教諭からの指示と助言に従って計画をたて、また実施します。参加しながらも同時に観察を行っていることになるので、参加についても記録をとるのがよいでしょう。

(3) 授業実習

各教科の学習指導および道徳の学習指導が中心となります。授業実習を行う手順は、まず時間の決定があり、次いで学習指導案を作成することになります。授業実習の成否はこの学習指導案に大きくかかっているといつてよいでしょう。

この授業実習について、さらに詳細に述べていきます。

4. 授業実習

(1) 授業実習の計画

3週間または4週間（出校15日間、120時間以上）の実習期間で、学校の授業計画の流れを妨げないように授業実習を行うには周到な計画が必要です。授業実習の準備には次のような諸点に留意してください。

1. 実習校の教育課程をあらかじめよく研究して、自分の担当する箇所の教育課程の中での位置付けを確認しておくこと。
2. 学習指導要領と教科書を照合して、学習指導目的を確認しておくこと。
3. 指導教諭の教育方針、学習目的、担当クラスの生徒の実態などをよく聞いておくこと。
4. 教育内容を吟味して、必要な教材などを用意しておくこと。

(2) 学習指導案の作成

指導案の作成にあたっては、教材研究が事前に充分に行われている必要があります。よい指導案を作るには、教えるべき教材について、授業実習計画で述べた諸留意点ならびに下記の点を考慮して、徹底的に研究しておいてください。

1. 教科書をよく研究しておくこと。
2. 学習指導要領の指導書等を参考にすること。
3. 指導の要点を確認しておくこと。
4. 必要であれば指導教諭の意見を聞き、討論を充分に行うこと。

指導案を作成したら、指導教諭に確認・検討・批判を仰ぎ、訂正すべきところは訂正し、清書します。指導案を検討するには次の諸点を確認してください。

- a. 本時授業の目標が明確に記されているか。
- b. 学習活動は生徒の実態に即しているか。
- c. 個別あるいは集団の、生徒の興味を持続していけるように学習活動は展開されているか。
- d. 前時の指導、今後の指導との関係はついているか。
- e. 教材、教具の準備はされているか。
- f. 指導案に誤字・脱字はないか。
- g. 学習活動の時間配分は適切か（時間が余った場合の対応なども考える）。
- h. 考えさせる指導、作成させる指導への配分は適切か。

5. 生徒指導

学校の教育活動は大きく学習指導と生徒指導の二つに分けられます。教科を中心とする学習指導が教育活動の表側とすれば、生徒指導は一人の生徒、あるいは生徒集団の健全な社会化を促すことによって、裏側から学習指導の基底を培うものです。

生徒指導は普通、学級（ホームルーム）経営、道徳指導、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等を通じて行われます。

(1) 学級経営

学級は教科のために設けられた学習集団であると共に、教師が生徒との人間関係を確立したり、あるいは生徒同士の自治能力や連帯性を高める生活集団でもあります。

学級担任教師は、学級経営を通して、生徒個人の学校生活への適応、学業成績に関すること、進路の選択並びに生徒の健康と安全について指導し、個々の生徒の自己表現、自発性と集団の健全な発展を調和させます。

学級担任教師による学級集団の性格・雰囲気は、教科指導に大きく反映します。

実習生は普通、指導教諭の担当している学級の日常活動（出欠簿・給食・掃除等）の指導を委任されます。

(2) 道徳の指導

「道徳」は、学校の教育活動を通じて行うことが基本ですが、週1時間の特設の「道徳」の時間では、学校生活の中で観察される個々の問題等を計画的・発展的に指導します。

学習指導案によれば、道徳教育の目標は「人間尊重の精神を、家族・学校・その他社会における具体的生活の中に生かし、個性豊かな文化の創造と民主的な社会および国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献できる日本人を育成するため、その基盤として道徳性を養うこと」となっており、「道徳」の時間においては、次の4つの具体的目標があげられています。

1. 人間性についての理解を深める。
2. 道徳的判断力を高める。
3. 道徳的心情を豊かにする。
4. 道徳的態度における自立性の確立と実践意欲の向上。

通常、中学校では、学級担任教諭が道徳の指導を受け持ちます。

実習生は原則的には、指導教諭の担任学級の「道徳」の時間を受け持つことが予想されます。

「道徳」の指導法としては、討議、問答、説話、読み物、作文の利用等が考えられ、資料としては個々の生徒の体験・具体的行動、友人仲間の問題、社会生活に関する話題（新聞・雑誌の美談・実話・文学作品等）が考えられます。

「道徳」の時間を1時間でも担任することによって、実習生と生徒の信頼・協力的人間関係が非常に強まることしばしば観察されています。実習生はあらかじめ、道徳の時間に話したいトピックなどを考えておくことが望ましいといえます。

(3) クラブ活動

実習生は、実習期間内にクラブ活動に積極的に参加することが望まれます。クラブ活動に参加することは、生徒との交わりを深くし、その理解を深めるよい機会でもあります。自分の長じた活動に参加することが望ましいですが、たとえ特技がなくても、適切な種類のクラブがあれば参加する意欲を持つべきです。クラブ担当の責任をとる指導教諭の指導上の注意をよく聞いて、あくまで教師としての立場を忘れないようにしてください。

(4) 学校行事

学校行事には、学校の創立記念日・文化祭・学芸会・運動会・遠足等があり、全校で計画される教育活動です。実習生は、実習中にこのような行事にあたることしばしばあります。その場合は、指導というより参加の形式をとりますが、このような機会も、学校教育の実際を経験する絶好の機会ですから、行事の中で、教師・生徒の果たす役割・機能・反応等に注目して、実習校実習の成果に貢献するような方向で参加すべきでしょう。

6. 実習校実習中の連絡

緊急の場合、必ず教職センターまたは教務課に連絡してください。

14

教育実習簿

「教育実習簿」の記入、提出に際しては次のことに注意してください。また、書き方については、教育実習事前指導において指示します。

1. 提出期限を必ず守る（日誌は毎日指導教諭に提出。迷惑にならないよう放課後すぐに提出すること）。
2. すべてボールペンで記入すること。鉛筆書きは不可。
3. 丁寧な文字で誤字・脱字・略字に注意して書くこと（誤字・脱字・略字があった場合はただちに訂正すること）。
4. 「教育実習簿」の記述においても必要な敬語を用いる配慮が大切。
※事前指導のレポート作成の際にも、以上の諸注意をふまえて作成すること。
5. 実習校実習が始まるまでに記入できるところ（表紙・実習校の概況・実習校の現状・実習校オリエンテーション等）は、できる範囲で事前に記入しておく。

15

実習校実習を終えたら

1. 実習校実習終了にあたって、実習校で指導を受けた校長先生をはじめ、教職員に十分に礼を尽くすこと。必ず各自で指導教諭にお礼状を出すこと。
2. 実習校実習で親しんだ生徒達との交流に際しては、あくまでも実習生の勤務上の心得をふまえること。
3. 事後指導を終えた後、指定された期日までに「教育実習簿」を教職センターに提出してください。
4. 提出された「教育実習簿」は、卒業前に実習生へ返却します。
5. その後、教員の職（常勤・非常勤に関わらず）に就いた場合には、必ず教職センターに報告してください。

16

授業科目「教職実践演習（中・高）」

4年次後期に教職の学びの軌跡の集大成である「教職実践演習（中・高）」の授業があります。原則として欠席を認めません。

1回目の授業の際に「教職履修カルテ」を提出してもらいますので、それまでにすべての項を記入しておいてください。

17

教育職員免許状の取得

教育職員免許法で定める所要資格を満たした者は、都道府県教育委員会に申請し、免許状を取得することができます。

一括申請とは

本学の規定に基づいて免許状取得に必要な条件を満たした者については、神奈川県教育委員会への免許状授与申請を取りまとめて大学が代行しています。これを「一括申請」といいます。

なお、本学を卒業後、科目等履修生として継続して教職課程を履修して免許状取得に必要な条件を満たした場合は、「一括申請」の対象外としています。お住まいの都道府県教育委員会へ個人申請をしてください。

一括申請の手続き

一括申請の取扱いを希望する学生は、4年次9月～10月に開催予定の「教育職員免許状一括申請説明会」に出席し、所定の期日までに手続きを行い、申請料を納入しなければなりません。詳細については、FerrisPassport で掲示するので、必ず確認してください。

免許状を取得できる時期

免許状は上記の手続きを経て学位授与式当日に交付されます。

学科専門科目等 (教科に関する科目)

英語：文学部英語英米文学科専門科目

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

●1～5：●1～5のそれぞれで、必ず1科目以上修得しなければならない科目。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

/：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

科目名の前に付いている記号

◎：教職課程履修者は、履修することが望ましい科目。

☆：文学部英語英米文学科専門科目として2019年度に開講された「アメリカ文学史(2)」「イギリス小説1(2)」「イギリス小説3(2)」は、下表の科目とは別科目のため、教職の「教科に関する科目」として認められないため注意すること。

【教科に関する科目の最低修得単位（※●1～5の単位をそれぞれ含むこと。）】

2019年度以降入学者 中学校：24単位 高等学校：28単位

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度					
			2023	2022	2021	2020	2019	
英語学	英語学研究入門	(2)	●1	/	/	/	/	/
	第二言語習得から見る英語学習	(2)	●1	/	/	/	/	/
	英語のナラティブ分析	(2)	●1	/	/	/	/	/
	英語学	(2)	●1	/	/	/	/	/
	英語学研究入門1	(2)	/	●1	●1	●1	●1	
	英語学研究入門2	(2)	/	●1	●1	●1	●1	
	英語学1	(2)	/	●1	●1	●1	●1	
	英語学2	(2)	/	●1	●1	●1	●1	
	English Linguistics 1	(2)	/	●1	●1	●1	●1	
	English Linguistics 2	(2)	/	●1	●1	●1	●1	
	英語の歴史	(2)	○	/	/	/	/	
	◎ Pronunciation Clinic	(2)	○	/	/	/	/	
	英米文化専門講読1 0	(2)	/	○	○	○	○	
	英米文化専門講読1 1	(2)	/	○	○	○	○	
	英語の歴史1	(2)	/	○	○	○	○	
	英語の歴史2	(2)	/	○	○	○	○	
	英語の発音1	(2)	/	○	○	○	○	
英語の発音2	(2)	/	○	○	○	○		
英語文学/英米文学	イギリス研究入門1	(2)	●2	/	「異文化理解」参照			
	イギリス研究入門2	(2)	●2	●2	●2	●2	●2	
	イギリス研究入門3	(2)	●2	/	/	/	/	
	イギリス文学史	(2)	●2	/	/	/	/	
	イギリス研究入門4	(2)	/	●2	●2	●2	●2	
	イギリス研究入門5	(2)	/	●2	●2	●2	●2	
	イギリス文学史1(詩)	(2)	/	●2	●2	●2	●2	
	イギリス文学史2(劇)	(2)	/	●2	●2	●2	●2	
	イギリス文学史3(小説)	(2)	/	●2	●2	●2	●2	
	アメリカ研究入門1	(2)	●3	「異文化理解」参照				
	☆ アメリカ文学史	(2)	●3	●3	●3	●3	●3	
	アメリカ詩	(2)	●3	/	/	/	/	
	アメリカ演劇	(2)	●3	/	/	/	/	
	アメリカ詩1	(2)	/	●3	●3	●3	●3	
	アメリカ詩2	(2)	/	●3	●3	●3	●3	
	アメリカ演劇1	(2)	/	●3	●3	●3	●3	
	アメリカ演劇2	(2)	/	●3	●3	●3	●3	
	アメリカ小説1	(2)	○	○	○	○	○	
	アメリカ小説2	(2)	○	○	○	○	○	
	イギリス詩1	(2)	○	○	○	○	○	
	イギリス詩2	(2)	○	○	○	○	○	
	イギリス演劇1	(2)	○	○	○	○	○	
	イギリス演劇2	(2)	○	○	○	○	○	
	☆ イギリス小説1	(2)	○	○	○	○	○	
	イギリス小説2	(2)	○	○	○	○	○	
	アメリカ小説3	(2)	/	/	/	/	/	
	英米文化専門講読2	(2)	/	○	○	○	○	
英米文化専門講読4	(2)	/	○	○	○	○		
英米文化専門講読5	(2)	/	○	○	○	○		
イギリス詩3	(2)	/	○	○	○	○		
イギリス演劇3	(2)	/	○	○	○	○		
☆ イギリス小説3	(2)	/	○	○	○	○		

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
英語コミュニケーション	Academic Writing	(2)	●4	/	/	/	/
	Business Communication	(2)	●4	/	/	/	/
	Focus on Listening and Reading	(2)	●4	/	/	/	/
	Writing Workshop	(2)	●4	/	/	/	/
	Academic Skills	(2)	●4	/	/	/	/
	Academic Writing 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Academic Writing 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Global Issues 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Global Issues 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Business Communication 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Business Communication 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Literature and Culture 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Literature and Culture 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Focus on Listening and Reading 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Focus on Listening and Reading 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Writing Workshop 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Writing Workshop 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Academic Skills 1	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	Academic Skills 2	(2)	/	●4	●4	●4	●4
	異文化理解	アメリカ研究入門3	(2)	●5	●5	●5	●5
日英語の発想と表現		(2)	●5	●5	●5	●5	○
Thought and Expression in English		(2)	●5	●5	●5	●5	○
アメリカ研究入門1		(2)	[英文学] 類	●5	●5	●5	●5
イギリスの芸術		(2)	○	/	/	/	/
英語圏の映画と映像		(2)	○	/	/	/	/
英語と社会・文化		(2)	○	/	/	/	/
イギリス研究入門1		(2)	[英文学] 類	○	○	○	○
アメリカ研究入門2		(2)	/	○	○	○	○
英米文化専門講読1		(2)	/	○	○	○	○
英米文化専門講読6		(2)	/	○	○	○	○
英米文化専門講読7		(2)	/	○	○	○	○
英米文化専門講読8		(2)	/	○	○	○	○
イギリス文化史		(2)	/	○	○	○	○
イギリスの文化と芸術1		(2)	/	○	○	○	○
イギリスの文化と芸術2		(2)	/	○	○	○	○
英米芸術史		(2)	/	○	○	○	○
英語圏の映画と映像1		(2)	/	○	○	○	○
英語圏の映画と映像2		(2)	/	○	○	○	○
英語圏の映画と映像3		(2)	/	○	○	○	○
英語圏の映画と映像4	(2)	/	○	○	○	○	
英語と社会・文化1	(2)	/	○	○	○	○	
英語と社会・文化2	(2)	/	○	○	○	○	

国語：文学部日本語日本文学科専門科目

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

●1～6：●1～6のそれぞれで、必ず1科目以上修得しなければならない科目。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

/：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【注意事項】

(1) A,Bの履修ルール：「シラバス」に記載のとおりとする。

(2) 科目名の前に付いている記号

☆：中一種免許状取得については、「書道」の科目をいずれか1科目必修とする。

なお、「書道」の科目は高一種免許状取得のための単位には算入されない。

【教科に関する科目の最低修得単位（※●1～6の単位をそれぞれ含むこと。）】

2019年度以降入学者 中学校：24単位（書道●6を含む） 高等学校：28単位（書道●6を除く）

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論A	(2)	●1	●1	●1	●1	●1
	日本語学概論B	(2)	●1	●1	●1	●1	●1
	基礎論文演習(文章表現)	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	日本語の歴史A	(2)	○	○	○	○	○
	日本語の歴史B	(2)	○	○	○	○	○
	日本語文法研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	日本語学概論研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	日本語音声研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	方言研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	日本語教育研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	日本語の形態と構文	(2)	/	/	/	/	/
	日本語の意味と語彙	(2)	/	/	/	/	/
	日本語の音声とアクセント	(2)	/	/	/	/	/
	日本語の文体と語法	(2)	/	/	/	/	/
	日本の漢字と国語辞書	(2)	○	○	○	○	○
	日本語の敬語	(2)	/	/	/	/	/
国文学 (国文学史を含む。)	日本古典文学史(古代)(1)	(2)	●3	/	/	/	/
	日本古典文学史(中近世)(1)	(2)	●3	/	/	/	/
	日本古典文学史1	(2)	/	●3	●3	●3	●3
	日本古典文学史2	(2)	/	●3	●3	●3	●3
	日本古典文学史3	(2)	/	●3	●3	●3	●3
	日本古典文学史4	(2)	/	●3	●3	●3	●3
	日本近代文学史A	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
	日本近代文学史B	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
	上代文学研究の方法	(2)	○	○	○	○	○
	中古文学研究の方法	(2)	○	○	○	○	○
	中世文学研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	近世文学研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	近現代文学研究の方法	(2)	/	/	/	/	/
	神話の世界	(2)	○	○	○	○	○
	古代和歌の世界	(2)	○	/	/	/	/
	古代和歌の世界A	(2)	/	/	/	/	/
	古代和歌の世界B	(2)	○	○	○	○	○
	物語の世界	(2)	○	/	/	/	/
	物語の世界A	(2)	/	/	/	/	/
	物語の世界B	(2)	/	/	/	/	/
	日記の世界	(2)	/	/	/	/	/
	随筆の世界	(2)	/	/	/	/	/
	筆記の世界	(2)	/	/	/	/	/
	説話の世界	(2)	/	/	/	/	/
	中世和歌の世界	(2)	/	/	/	/	/
	近世小説の世界	(2)	/	/	/	/	/
俳諧の世界	(2)	/	/	/	/	/	
近代小説の世界	(2)	/	/	/	/	/	
現代小説の世界	(2)	/	/	/	/	/	
近現代詩歌の世界	(2)	/	/	/	/	/	
同時代文学の世界	(2)	/	/	/	/	/	
文字と文学	(2)	/	/	/	/	/	
文学と子ども	(2)	/	/	/	/	/	
漢文学	漢文学概説A	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	漢文学概説B	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	漢文学研究の方法	(2)	○	○	○	○	○
	漢字の世界	(2)	/	/	/	/	/
	漢詩漢文の世界	(2)	○	○	○	○	○
	日中比較言語・文学の世界	(2)	/	/	/	/	/
書道(書写を中心とする。)	☆ 書道	(1)	●6	/	/	/	/
	☆ 書道A	(1)	/	●6	●6	●6	●6
	☆ 書道B	(1)	/	●6	●6	●6	●6
	☆ 書道B	(1)	/	●6	●6	●6	●6

社会：国際交流学部国際交流学科専門科目等

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

●1～8：●1～8のそれぞれで、必ず1科目以上必ず修得しなければならない科目。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

/：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【注意事項】

(1) A.Bの履修ルール：「シラバス」に記載のとおりとする。

(2) 「哲学A / 哲学A (2)」「哲学B / 哲学B (2)」はC.L.Aコア科目。

【教科に関する科目の最低修得単位 (※●1～8の単位をそれぞれ含むこと)】

2019年度以降入学者 中学校：24単位

※本学では、地理歴史・公民の免許の両方を取得する必要があるため、教科に関する科目の修得単位の計算は地理歴史・公民で確認すること。

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
日本史・外国史 / 日本史及び外国史	日本史概説A	(2)	●1	●1	●1	●1	●1
	日本史概説B	(2)	●1	●1	●1	●1	●1
	横浜学	(2)	○	/	/	/	/
	日本外交史	(2)	○	/	/	/	/
	日本社会史	(2)	○	/	/	/	/
	横浜学総論	(2)	○	/	/	/	/
	近代日本と国際関係	(2)	○	/	/	/	/
	日本文化の原風景	(2)	○	/	/	/	/
	日米関係史	(2)	○	/	/	/	/
	現代日本と国際関係	(2)	○	/	/	/	/
	現代社会に見る日本文化	(2)	○	/	/	/	/
	世界史概説A	(2)	●2	●2	●2	●2	●2
	世界史概説B	(2)	●2	●2	●2	●2	●2
	アジア史概説	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの近現代史	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの国際関係史	(2)	○	/	/	/	/
	中国現代史	(2)	○	/	/	/	/
	韓国現代史	(2)	○	/	/	/	/
	北朝鮮現代史	(2)	○	/	/	/	/
	現代中国入門	(2)	○	/	/	/	/
	ヨーロッパ史	(2)	○	/	/	/	/
	フランス史	(2)	○	/	/	/	/
	ドイツ史	(2)	○	/	/	/	/
	スペイン史	(2)	○	/	/	/	/
	イギリス史	(2)	○	/	/	/	/
	アメリカ社会史	(2)	○	/	/	/	/
	アメリカ史	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの近・現代史A	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの近・現代史B	(2)	○	/	/	/	/
	東アジア・東南アジアの近・現代史A	(2)	○	/	/	/	/
	東アジア・東南アジアの近・現代史B	(2)	○	/	/	/	/
	中国近代史	(2)	○	/	/	/	/
	ロシアと現代中国	(2)	○	/	/	/	/
	近現代中国思想と日本	(2)	○	/	/	/	/
	ヨーロッパ近代史	(2)	○	/	/	/	/
	ヨーロッパ現代史	(2)	○	/	/	/	/
	北ヨーロッパの歴史	(2)	○	/	/	/	/
	フランス現代史	(2)	○	/	/	/	/
	歴史からみるドイツ	(2)	○	/	/	/	/
	歴史からみるスペイン語圏	(2)	○	/	/	/	/
スペイン現代史	(2)	○	/	/	/	/	
スペインの歴史	(3)	○	/	/	/	/	
アメリカ史1	(2)	○	/	/	/	/	
アメリカ史2	(2)	○	/	/	/	/	
現代アメリカ論1	(2)	○	/	/	/	/	
現代アメリカ論2	(2)	○	/	/	/	/	
イギリス史1	(2)	○	/	/	/	/	
イギリス史2	(2)	○	/	/	/	/	
イギリス史3	(2)	○	/	/	/	/	
現代イギリス論	(2)	○	/	/	/	/	
地理学 (地誌を含む。)	人文地理学	(2)	●3	●3	●3	●3	●3
	自然地理学	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
	地球環境	(2)	○	/	/	/	/
	持続可能な資源利用	(2)	○	/	/	/	/
	資源問題	(2)	○	/	/	/	/
	世界の人口問題	(2)	○	/	/	/	/
	地誌	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	ユーラシアの国際関係	(2)	○	/	/	/	/
	アメリカの政治	(2)	○	/	/	/	/
	アフリカを学ぶ	(2)	○	/	/	/	/
	ラテンアメリカの歴史と文化	(2)	○	/	/	/	/
	移住と文化の理論	(2)	○	/	/	/	/
	スペイン語圏の文化と社会	(2)	○	/	/	/	/
	東南アジアの政治	(2)	○	/	/	/	/
	ロシア研究	(2)	○	/	/	/	/
	コリアン・スタディーズ	(2)	○	/	/	/	/
	アジアの国際関係	(2)	○	/	/	/	/
	南アジアの文化と社会	(3)	○	/	/	/	/
	南アジアの経済	(2)	○	/	/	/	/
	南アジアの労働	(2)	○	/	/	/	/
中東の文化と社会	(3)	○	/	/	/	/	
中東を学ぶ	(2)	○	/	/	/	/	
ヨーロッパ政治の基礎	(2)	○	/	/	/	/	
ヨーロッパ統合論	(2)	○	/	/	/	/	
ヨーロッパ地域論	(2)	○	/	/	/	/	

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
地理学(地誌を含む)	フランスの政治	(2)		○	○	○	○
	イギリスの政治と社会1	(2)		○	○	○	○
	イギリスの政治と社会2	(2)		○	○	○	○
	イギリスの文化	(2)		○	○	○	○
	アメリカの政治と社会1	(2)		○	○	○	○
	アメリカの政治と社会2	(2)		○	○	○	○
	アメリカの文化1	(2)		○	○	○	○
	アメリカの文化2	(2)		○	○	○	○
	ラテンアメリカの文化と社会	(2)		○	○	○	○
	ラテンアメリカの文化と社会	(2)		○	○	○	○
法律学、政治学	政治学概論	(2)	●6	●6	●6	●6	●6
	国際関係論	(2)	○	○	○	○	○
	人権保障と法	(2)	○	○	○	○	○
	国際関係史	(2)	○	○	○	○	○
	文化外交	(2)	○	○	○	○	○
	グローバル化と労働	(2)	○	○	○	○	○
	国際政治	(2)	○	○	○	○	○
	国際平和論	(2)	○	○	○	○	○
	国際社会と法	(2)	○	○	○	○	○
	国際経済と法	(2)	○	○	○	○	○
	地域統合	(2)	○	○	○	○	○
	ヨーロッパ政治思想史	(2)	○	○	○	○	○
	安全保障	(2)	○	○	○	○	○
	比較法律家論	(2)	○	○	○	○	○
	ジェンダーと法	(2)	○	○	○	○	○
	セクシュアリティと法	(2)	○	○	○	○	○
	SDGs入門	(2)	○	○	○	○	○
	東アジアの安全保障	(2)	○	○	○	○	○
	近代国際関係史	(2)	○	○	○	○	○
	戦後国際関係史	(2)	○	○	○	○	○
	国際政治の基礎	(2)	○	○	○	○	○
	国際政治の視角	(2)	○	○	○	○	○
	国際機関と国際平和	(2)	○	○	○	○	○
	日本政治思想史	(2)	○	○	○	○	○
	法でみる世界A	(2)	○	○	○	○	○
法でみる世界B	(2)	○	○	○	○	○	
法でみる社会A	(2)	○	○	○	○	○	
法でみる社会B	(2)	○	○	○	○	○	
社会学、経済学	社会学概論A	(2)	●7	●7	●7	●7	●7
	社会学概論B	(2)	●7	●7	●7	●7	●7
	身体と生命の社会学	(2)	○	○	○	○	○
	グローバル化する仕事と家族	(2)	○	○	○	○	○
	ジェンダーと持続可能な開発	(2)	○	○	○	○	○
	環境と持続可能性のまちづくり	(2)	○	○	○	○	○
	家族の比較文化論	(2)	○	○	○	○	○
	ラテンアメリカ文化論	(2)	○	○	○	○	○
	国際交通論	(2)	○	○	○	○	○
	社会政策論	(2)	○	○	○	○	○
	観光社会学	(2)	○	○	○	○	○
	グローバル経済	(2)	○	○	○	○	○
	日本経済の歴史	(2)	○	○	○	○	○
	現代の日本経済	(2)	○	○	○	○	○
	国際経済学	(2)	○	○	○	○	○
	途上国と開発経済学	(2)	○	○	○	○	○
	開発援助論	(2)	○	○	○	○	○
	国際開発の理論と実践	(2)	○	○	○	○	○
	市民社会の国際協力	(2)	○	○	○	○	○
	アメリカと国際経済	(2)	○	○	○	○	○
	コーポレート・ガバナンスと日本企業	(2)	○	○	○	○	○
	金融入門	(2)	○	○	○	○	○
	マーケティング論	(2)	○	○	○	○	○
	ヨーロッパ社会史	(2)	○	○	○	○	○
	現代日本の経済問題	(2)	○	○	○	○	○
	経営史	(2)	○	○	○	○	○
	イノベーションと社会	(2)	○	○	○	○	○
	入門経済学1	(2)	○	○	○	○	○
	入門経済学2	(2)	○	○	○	○	○
	アジア経済論	(2)	○	○	○	○	○
	金融論	(2)	○	○	○	○	○
	ジェンダーと持続可能な開発(1)	(2)	○	○	○	○	○
	ジェンダーと持続可能な開発(2)	(2)	○	○	○	○	○
	現代家族と福祉	(2)	○	○	○	○	○
	ヨーロッパ社会福祉史	(2)	○	○	○	○	○
	グローバル化する社会	(2)	○	○	○	○	○
	統計で学ぶ社会問題(基礎)	(2)	○	○	○	○	○
	統計で学ぶ社会問題(応用)	(2)	○	○	○	○	○
	グローバル・ビジネス	(2)	○	○	○	○	○
	世界の格差と国際協力	(2)	○	○	○	○	○
在日外国人	(2)	○	○	○	○	○	
余暇と旅行	(2)	○	○	○	○	○	
民族問題から見た世界情勢	(2)	○	○	○	○	○	
近代グローバル経済の発展	(2)	○	○	○	○	○	
国際交通ビジネス	(2)	○	○	○	○	○	
哲学A	(2)	●8	●8	●8	●8	●8	
哲学B	(2)	●8	●8	●8	●8	●8	
世界の宗教	(2)	○	○	○	○	○	
イスラームと世界	(2)	○	○	○	○	○	
政治思想論	(2)	○	○	○	○	○	
イギリスの思想と宗教	(2)	○	○	○	○	○	
アメリカの思想と宗教	(2)	○	○	○	○	○	
キリスト教と文化	(2)	○	○	○	○	○	
ヨーロッパ世界とキリスト教	(2)	○	○	○	○	○	
現代思想論	(2)	○	○	○	○	○	
儒教と世界	(2)	○	○	○	○	○	
前近代の中国思想	(2)	○	○	○	○	○	

地理歴史：国際交流学部国際交流学科専門科目

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

●1～5：●1～5のそれぞれで、必ず1科目以上修得しなければならない科目。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

/：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【注意事項】

(1) A,Bの履修ルール：「シラバス」に記載のとおりとする。

【教科に関する科目の最低修得単位数（※●1～5の単位をそれぞれ含むこと。）】

2019年度以降入学者 高等学校：28単位

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
日本史	日本史概説A	(2)	●1	●1	●1	●1	●1
	日本史概説B	(2)	●1	●1	●1	●1	●1
	横浜学	(2)	○	/	/	/	/
	日本外交史	(2)	○	/	/	/	/
	日本社会史	(2)	○	/	/	/	/
	横浜学総論	(2)	/	○	○	○	○
	近代日本と国際関係	(2)	/	○	○	○	○
	日本文化の原風景	(2)	/	○	○	○	○
	日米関係史	(2)	/	○	○	○	○
	現代日本と国際関係	(2)	/	○	○	○	○
外国史	現代社会に見る日本文化	(2)	/	○	○	○	○
	世界史概説A	(2)	●2	●2	●2	●2	●2
	世界史概説B	(2)	●2	●2	●2	●2	●2
	アジア史概説	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの近現代史	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの国際関係史	(2)	○	/	/	/	/
	中国現代史	(2)	○	○	○	○	○
	韓国現代史	(2)	○	○	○	○	○
	北朝鮮現代史	(2)	○	○	○	○	○
	現代中国入門	(2)	○	/	/	/	/
	ヨーロッパ史	(2)	○	/	/	/	/
	フランス史	(2)	○	/	/	/	/
	ドイツ史	(2)	○	/	/	/	/
	スペイン史	(2)	○	/	/	/	/
	イギリス史	(2)	○	/	/	/	/
	アメリカ社会史	(2)	○	/	/	/	/
	アメリカ史	(2)	○	/	/	/	/
	東アジアの近・現代史A	(2)	/	○	○	○	○
	東アジアの近・現代史B	(2)	/	○	○	○	○
	東アジア・東南アジアの近・現代史A	(2)	/	○	○	○	○
	東アジア・東南アジアの近・現代史B	(2)	/	○	○	○	○
	中国近代史	(2)	/	○	○	○	○
	ロシアと現代中国	(2)	/	○	○	○	○
	近現代中国思想と日本	(2)	/	○	○	○	○
	ヨーロッパ近代史	(2)	/	○	○	○	○
	ヨーロッパ現代史	(2)	/	○	○	○	○
	北ヨーロッパの歴史	(2)	/	○	○	○	○
フランス現代史	(2)	/	○	○	○	○	
歴史からみるドイツ	(2)	/	○	○	○	○	
歴史からみるスペイン語圏	(2)	/	○	○	○	○	
スペイン現代史	(2)	/	○	○	○	○	
スペインの歴史	(2)	/	○	○	○	○	
アメリカ史1	(2)	/	○	○	○	○	
アメリカ史2	(2)	/	○	○	○	○	
現代アメリカ論1	(2)	/	○	○	○	○	
現代アメリカ論2	(2)	/	○	○	○	○	
イギリス史1	(2)	/	○	○	○	○	
イギリス史2	(2)	/	○	○	○	○	
イギリス史3	(2)	/	○	○	○	○	
現代イギリス論	(2)	/	○	○	○	○	
人文地理学及び自然地理学	人文地理学	(2)	●3	●3	●3	●3	●3
	自然地理学	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
	地球環境	(2)	○	/	/	/	/
	持続可能な資源利用	(2)	○	/	/	/	/
	資源問題	(2)	/	○	○	○	○
	世界の人口問題	(2)	/	○	○	○	○

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
地誌	地誌	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	ユーラシアの国際関係	(2)	○	○	○	○	○
	アメリカの政治	(2)	○	○	○	○	○
	アフリカを学ぶ	(2)	○	○	○	○	○
	ラテンアメリカの歴史と文化	(2)	○	○	○	○	○
	移住と文化の理論	(2)	○	○	○	○	○
	スペイン語圏の文化と社会	(2)	○	○	○	○	○
	東南アジアの政治	(2)	○	○	○	○	○
	ロシア研究	(2)	○	○	○	○	○
	コリアン・スタディーズ	(2)	○	○	○	○	○
	アジアの国際関係	(2)	○	○	○	○	○
	南アジアの文化と社会	(2)	○	○	○	○	○
	南アジアの経済	(2)	○	○	○	○	○
	南アジアの労働	(2)	○	○	○	○	○
	中東の文化と社会	(2)	○	○	○	○	○
	中東を学ぶ	(2)	○	○	○	○	○
	ヨーロッパ政治の基礎	(2)	○	○	○	○	○
	ヨーロッパ統合論	(2)	○	○	○	○	○
	ヨーロッパ地域論	(2)	○	○	○	○	○
	フランスの政治	(2)	○	○	○	○	○
	イギリスの政治と社会1	(2)	○	○	○	○	○
	イギリスの政治と社会2	(2)	○	○	○	○	○
	イギリスの文化	(2)	○	○	○	○	○
	アメリカの政治と社会1	(2)	○	○	○	○	○
	アメリカの政治と社会2	(2)	○	○	○	○	○
	アメリカの文化1	(2)	○	○	○	○	○
	アメリカの文化2	(2)	○	○	○	○	○
	ラテンアメリカの文化と社会	(2)	○	○	○	○	○

公民：国際交流学部国際交流学科専門科目等

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

●1～3：●1～3のそれぞれで、必ず1科目以上修得しなければならない科目。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

/：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【注意事項】

(1) A.Bの履修ルール：「シラバス」に記載のとおりとする。

(2) 「哲学A / 哲学A（2）」「哲学B / 哲学B（2）」はC.L.Aコア科目。

【教科に関する科目の最低修得単位数（※●1～3の単位数をそれぞれ含むこと。）】

2019年度以降入学者 高等学校：28単位

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度					
			2023	2022	2021	2020	2019	
法学 (国際法を含む)、政治学 (国際政治を含む)	政治学概論	(2)	●1	●1	●1	●1	●1	
	国際関係論	(2)	○	○	○	○	○	
	人権保障と法	(2)	○	○	○	○	○	
	国際関係史	(2)	○	/	/	/	/	
	文化外交	(2)	○	/	/	/	/	
	グローバル化と労働	(2)	○	/	/	/	○	
	国際政治	(2)	○	/	/	/	/	
	国際平和論	(2)	○	/	/	/	/	
	国際社会と法	(2)	○	○	○	○	○	
	国際経済と法	(2)	○	○	○	○	○	
	地域統合	(2)	○	○	○	○	○	
	ヨーロッパ政治思想史	(2)	○	○	○	○	○	
	安全保障	(2)	○	○	○	○	○	
	比較法学家論	(2)	○	/	/	/	/	
	ジェンダーと法	(2)	○	○	○	○	○	
	セクシュアリティと法	(2)	○	/	/	/	/	
	SDGs入門	(2)	○	/	/	/	/	
	東アジアの安全保障	(2)	○	/	/	/	/	
	近代国際関係史	(2)	/	○	○	○	○	
	戦後国際関係史	(2)	/	○	○	○	○	
	国際政治の基礎	(2)	/	○	○	○	○	
	国際政治の見方	(2)	/	○	○	○	○	
	国際機構と国際平和	(2)	/	○	○	○	○	
	日本政治思想史	(2)	/	○	○	○	○	
	法でみる世界A	(2)	/	○	○	○	/	
	法でみる世界B	(2)	/	○	○	○	/	
	法でみる社会A	(2)	/	○	○	○	/	
	法でみる社会B	(2)	/	○	○	○	/	
	社会学、経済学 (国際経済を含む)	社会学概論A	(2)	●2	●2	●2	●2	●2
		社会学概論B	(2)	●2	●2	●2	●2	●2
身体と生命の社会学		(2)	○	○	○	○	○	
グローバル化する仕事と家族		(2)	○	○	○	○	○	
ジェンダーと持続可能な開発		(2)	○	/	/	/	/	
環境と持続可能性のまちづくり		(2)	○	/	/	/	/	
家族の比較文化論		(2)	○	/	/	/	/	
ラテンアメリカ文化論		(2)	○	/	/	/	/	
国際交通論		(2)	○	/	/	/	/	
社会政策論		(2)	○	/	/	/	/	
観光社会学		(2)	○	/	/	/	/	
グローバル経済		(2)	○	○	○	○	○	
日本経済の歴史		(2)	○	○	○	○	○	
現代の日本経済		(2)	○	○	○	○	○	
国際経済学		(2)	○	○	○	○	○	
途上国と開発経済学		(2)	○	○	○	○	○	
開発援助論		(2)	○	○	○	○	○	
国際開発の理論と実践		(2)	○	○	○	○	○	
市民社会の国際協力		(2)	○	○	○	○	○	
アメリカと国際経済		(2)	○	○	○	○	○	
コーポレート・ガバナンスと日本企業		(2)	○	○	○	○	○	
金融入門		(2)	○	○	○	○	○	
マーケティング論		(2)	○	/	/	/	/	
ヨーロッパ社会史		(2)	○	/	/	/	/	
現代日本の経済問題		(2)	○	/	/	/	/	
経営史		(2)	○	/	/	/	/	
イノベーションと社会		(2)	○	/	/	/	/	
入門経済学1	(2)	○	/	/	/	/		

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
社会学、経済学 (国際経済を含む。)	入門経済学2	(2)	○				
	アジア経済論	(2)	○				
	金融論	(2)	○				
	ジェンダーと持続可能な開発 (1)	(2)		○	○	○	○
	ジェンダーと持続可能な開発 (2)	(2)		○	○	○	○
	現代家族と福祉	(2)		○	○	○	○
	ヨーロッパ社会福祉史	(2)		○			
	グローバル化する社会	(2)		○	○	○	○
	統計で学ぶ社会問題 (基礎)	(2)		○	○	○	○
	統計で学ぶ社会問題 (応用)	(2)		○	○	○	○
	グローバル・ビジネス	(2)		○	○	○	○
	世界の格差と国際協力	(2)		○	○	○	○
	在日外国人	(2)		○	○	○	○
	余暇と旅行	(2)		○	○	○	○
	民族問題から見た世界情勢	(2)		○	○	○	○
	近代グローバル経済の発展	(2)		○	○	○	○
	国際交通ビジネス	(2)		○	○	○	○
	哲学A	(2)	●3	●3	●3	●3	●3
	哲学B	(2)	●3	●3	●3	●3	●3
	哲学、倫理学、宗教学、 心理学	世界の宗教	(2)	○	○	○	○
イスラームと世界		(2)	○	○	○	○	○
政治思想論		(2)	○				
イギリスの思想と宗教		(2)	○	○	○	○	○
アメリカの思想と宗教		(2)	○	○	○	○	○
キリスト教と文化		(2)	○	○			
ヨーロッパ世界とキリスト教		(2)			○	○	○
現代思想論		(2)		○	○	○	○
儒教と世界		(2)		○	○	○	○
前近代の中国思想		(2)		○	○	○	○

音楽：音楽学部音楽芸術学科専門科目

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

●1～14：●1～14のそれぞれで、必ず1科目以上修得しなければならない科目。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

／：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【注意事項】

(1) P A 個人実技15/30/45は2019年度以降入学者対象科目。

(2) A, B の履修ルール：「シラバス」に記載のとおりとする。

(3) 科目名の前に付いている記号

■：音楽学部内開放科目

☆①：「P A 副科個人実技 A, B」については、講義科目：ピアノデュオに限る。

☆②：「P A 副科個人実技 A, B」については、講義科目：鍵盤楽器伴奏法に限る。

☆③：「P A 副科個人実技 A, B」については、講義科目：声楽、ピアノデュオ、鍵盤楽器伴奏法、ポピュラー系キーボード、ソルフェージュ、自由作曲、コンピュータ音楽制作を除く

☆④：「P A 副科個人実技 A, B」については、講義科目：自由作曲に限る。

(4) 科目名に網掛け：2018年度以前入学者対象科目。

【教科に関する科目の最低修得単位（※●1～14の単位をそれぞれ含むこと。）】

2019年度以降入学者 中学校：24単位 高等学校：28単位

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
ソルフェージュ	ソルフェージュA	(1)	●1	●1	●1	●1	●1
	ソルフェージュB	(1)	●1	●1	●1	●1	●1
	合唱I A	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	合唱I B	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	合唱II A	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	合唱II B	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	合唱III A	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	合唱III B	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	P A 声楽アンサンブル (スタンダード)	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	P A 声楽アンサンブル (アドバンスト)	(1)	●2	●2	●2	●2	●2
	邦楽 I	(1)	●3	●3	●3	●3	●3
	基礎声楽 A	(1)	●4	●4	●4	●4	●4
	基礎声楽 B	(1)	●4	●4	●4	●4	●4
	P A 教職実技 (声楽)	(1)	●4	●4	●4	●4	●4
	P A 教職実技 (初見視唱・初見視奏)	(1)	●4	●4	●4	●4	●4
	P A 個人実技15 (声楽)	(1)	●4	●4	●4	●4	●4
	P A 個人実技30 (声楽)	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
	P A 個人実技45 (声楽)	(3)	●4	●4	●4	●4	●4
	■ P A 副科個人実技A (声楽)	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
	■ P A 副科個人実技B (声楽)	(2)	●4	●4	●4	●4	●4
P A オペラ	(1)	○	○	○	○	○	
声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合奏	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A ピアノデュオ	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A フルートアンサンブル	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	■ P A アンサンブル弦楽	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	■ P A アンサンブル管楽	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A アンサンブル管弦楽	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A 室内楽	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A 個人実技15 (室内楽)	(1)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A 個人実技30 (室内楽)	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A 個人実技45 (室内楽)	(3)	●5	●5	●5	●5	●5
	■ ☆① P A 副科個人実技A (ピアノデュオ)	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	■ ☆① P A 副科個人実技B (ピアノデュオ)	(2)	●5	●5	●5	●5	●5
	P A 教職実技 (伴奏・即興演奏)	(1)	●6	●6	●6	●6	●6
	伴奏法 A	(1)	●6	●6	●6	●6	●6
	伴奏法 B	(1)	●6	●6	●6	●6	●6
	P A 個人実技15 (伴奏法)	(1)	●6	●6	●6	●6	●6
	P A 個人実技30 (伴奏法)	(2)	●6	●6	●6	●6	●6
	P A 個人実技45 (伴奏法)	(3)	●6	●6	●6	●6	●6
	■ ☆② P A 副科個人実技A (鍵盤楽器伴奏法)	(2)	●6	●6	●6	●6	●6
	■ ☆② P A 副科個人実技B (鍵盤楽器伴奏法)	(2)	●6	●6	●6	●6	●6
	基礎ピアノ A	(1)	●7	●7	●7	●7	●7
	基礎ピアノ B	(1)	●7	●7	●7	●7	●7
	P A 教職実技 (ピアノ)	(1)	●7	●7	●7	●7	●7
	P A 個人実技15 (器楽)	(1)	●7	●7	●7	●7	●7
	P A 個人実技30 (器楽)	(2)	●7	●7	●7	●7	●7
	P A 個人実技45 (器楽)	(3)	●7	●7	●7	●7	●7
	教職のためのピアノ A	(1)	/	/	/	●7	●7
教職のためのピアノ B	(1)	/	/	/	●7	●7	
■ ☆③ P A 副科個人実技A	(2)	●7	●7	●7	●7	●7	

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度				
			2023	2022	2021	2020	2019
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	■ ☆③ P A副科個人実技B	(2)	●7	●7	●7	●7	●7
	■ P A教職副科個人実技A	(1)	●7	●7	●7	●7	●7
	■ P A教職副科個人実技B	(1)	●7	●7	●7	●7	●7
	邦楽2	(1)	●8	●8	●8	●8	●8
	P A個人実技15 (邦楽)	(1)	●8	●8	●8	●8	●8
	P A個人実技30 (邦楽)	(2)	●8	●8	●8	●8	●8
	P A個人実技45 (邦楽)	(3)	●8	●8	●8	●8	●8
	共演芸術 1 A	(2)	○	○	○	○	○
	共演芸術 1 B	(2)	○	○	○	○	○
	共演芸術 2 A	(2)	○	○	○	○	○
	共演芸術 2 B	(2)	○	○	○	○	○
	共演芸術 A	(2)	/	/	/	/	/
	共演芸術 B	(2)	/	/	/	/	/
	指揮法	コーラスリーダー・ワークショップ	(2)	●9	●9	●9	●9
指揮法		(2)	●9	●9	●9	●9	●9
指揮法 A		(2)	/	/	/	●9	●9
指揮法 B		(2)	/	/	/	●9	●9
音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)、音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)/音楽理論、作曲法(編曲法を含む。)&及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	西洋音楽通史	(4)	●10	●10	●10	●10	●10
	日本音楽通史	(4)	●11	●11	●11	●11	●11
	P A教職実技(聴音・音楽理論)	(1)	●12	●12	●12	●12	●12
	和声 A	(2)	●12	/	/	/	/
	和声 B	(2)	●12	/	/	/	/
	和声 I A	(2)	/	●12	●12	●12	●12
	和声 I B	(2)	/	●12	●12	●12	●12
	コード理論 A	(2)	●12	/	/	/	/
	コード理論 B	(2)	●12	/	/	/	/
	和声 II A	(2)	/	●12	●12	●12	●12
	和声 II B	(2)	/	●12	●12	●12	●12
	ソングライティング	(2)	●13	/	/	/	/
	作・編曲法	(2)	/	●13	●13	●13	●13
	作曲を楽しまう A	(2)	●13	●13	●13	/	/
	作曲を楽しまう B	(2)	●13	●13	●13	/	/
	P A個人実技15 (作編曲)	(1)	●13	●13	●13	/	/
	P A個人実技30 (作編曲)	(2)	●13	●13	●13	/	/
	P A個人実技45 (作編曲)	(3)	●13	●13	●13	/	/
	P A副科個人実技 A (自由作曲)	(2)	●13	●13	●13	/	/
	P A副科個人実技 B (自由作曲)	(2)	●13	●13	●13	/	/
	諸民族の音楽	(2)	●14	/	/	/	/
	諸民族の音楽 A	(2)	/	●14	●14	●14	●14
	諸民族の音楽 B	(2)	/	●14	●14	●14	●14
	吹奏楽概論	(2)	○	/	/	/	/
	世界のポピュラー音楽	(2)	○	/	/	/	/
	音楽スペシャル講義	(2)	○	/	/	/	/
	音楽と歴史 1	(2)	/	○	○	○	○
	音楽と歴史 2	(2)	/	○	○	○	○
	音楽と歴史 3	(2)	/	○	○	○	○
	ポピュラー音楽史	(2)	○	○	○	○	○
	旋律学	(2)	○	/	/	/	/
	対位法	(2)	/	○	○	○	○
	対位法 A	(2)	/	/	/	○	○
対位法 B	(2)	/	/	/	○	○	
西洋音楽史特殊講義1	(2)	/	/	/	○	○	
西洋音楽史特殊講義2	(2)	/	/	/	○	○	
日本音楽史特殊講義	(2)	/	/	/	○	○	

教職課程・学部

1

取得できる免許状の種類・教科

本学において取得できる教科と免許状の種類は、次の表のとおりです。

所属学部・学科ごとに定められており、それ以外の免許状は原則として取得できません。卒業後も含め、他教科の免許取得を目指す場合の方法等について不明な点があれば、教職センター（7号館3階）に申し出て、相談してください。

課程認定学科	免許教科	免許状の種類
英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
国際交流学科	社会	中学校教諭一種免許状
	地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	公民	高等学校教諭一種免許状
音楽芸術学科	音楽	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状

2

教育職員免許法に定める単位数

教育職員免許法には、次のように定められています。

2019年度以降入学者

免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学における最低修得単位数						
			教科及び教科の指導法に関する科目	教職に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
					日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	情報機器の操作	
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること		28	27	4	2	2	2	2
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること		24	23	12	2	2	2	2

2018年度以前入学者

2022年度学生要覧を参照してください。

3

「教職に関する科目等」に関する教育職員免許法施行規則とそれへの本学の対応

教育職員免許法施行規則に定められている科目に基づき、本学では次のような科目を開講しています。

2022年度以降入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数		本学での開講科目
		中学校	高等学校	
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	8	4	英語科教育法Ⅰ (4) 英語科教育法Ⅱ (4) 国語科教育法Ⅰ (4) 国語科教育法Ⅱ (4) 社会・地理歴史科教育法Ⅰ (2) 社会・地理歴史科教育法Ⅱ (2) 社会・公民科教育法Ⅰ (2) 社会・公民科教育法Ⅱ (2) 音楽科教育法Ⅰ (4) 音楽科教育法Ⅱ (4)
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒 に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	教育原理 (2) 教育思想 (2) 教職入門 (2) 教育社会学 (2) 教育心理学 (2) 特別支援教育の基礎と方法 (1) 教育課程論 (2)
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法/ 総合的な探求の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	10	8	道徳教育の理論と実践 (2) 総合的な学習の時間の指導法 (1) 特別活動 (2) 教育の方法・技術 (情報通信技術の活用含む) (2) 生徒・進路指導の理論と方法 (2) 教育相談 (2)
教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	5	3	教育実習1 (1) 教育実習2 (2) 教育実習3 (2) — 教職実践演習(中・高) (2)
合 計		35	27	

2019年度～2021年度入学者

() 内は単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数		本学での開講科目
		中学校	高等学校	
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	8	4	英語科教育法Ⅰ (4)
				英語科教育法Ⅱ (4)
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	10	10	国語科教育法Ⅰ (4)
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			国語科教育法Ⅱ (4)
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒 に対する理解			社会・地理歴史科教育法Ⅰ (2)
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)			社会・地理歴史科教育法Ⅱ (2)
				社会・公民科教育法Ⅰ (2)
				社会・公民科教育法Ⅱ (2)
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	8	音楽科教育法Ⅰ (4)
	総合的な学習の時間の指導法/ 総合的な探求の時間の指導法			音楽科教育法Ⅱ (4)
	特別活動の指導法			教育原理 (2)
	教育の方法及び技術			教育思想 (2)
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			教職入門 (2)
	生徒指導の理論及び方法			教育社会学 (2)
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			教育心理学 (2)
教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	特別支援教育の基礎と方法 (1)			
教育実践に関する科目	教育実習	5	3	教育課程論 (2)
	学校体験活動			道徳教育の理論と実践 (2)
	教職実践演習			総合的な学習の時間の指導法 (1)
				特別活動 (2)
				教育方法・技術 (2)
				生徒・進路指導の理論と方法 (2)
				教育相談 (2)
				教育実習1 (1)
				教育実習2 (2)
				教育実習3 (2)
				—
				教職実践演習 (中・高) (2)
合 計		35	27	

2018年度以前入学者

2022年度学生要覧を参照してください。

4 他大学等で修得した単位の取り扱い

- ① 入学前に他大学等で修得した単位（1年次生・編入学生）
本学において教職課程の履修を希望する者は、必ず入学年度の4月オリエンテーション時まで教務課に申し出て、指導を受けてください。
- ② 在学中に他大学等で修得した単位
本学在学中に他大学等で修得した単位は、原則として免許状取得のための単位として認定されません。ただし、学生交流に関する協定及び単位互換に関する協定に基づき修得した単位は、次のものに限り免許状取得のための単位として認定されることがあります。詳しくは、事前に教務課に申し出て、指導を受けてください。

同志社女子大学において修得した単位	教科に関する科目、教職に関する科目、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作）
放送大学において修得した単位	教科に関する科目、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作）

教職課程 · 大学院

取得できる免許状の種類・教科

本学大学院において取得できる教科と免許状の種類は、次のとおりです。

研究科	専攻	免許教科	免許状の種類
人文科学研究科	英語英米文学専攻	英 語	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
	日本語日本文学専攻	国 語	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
国際交流研究科	国際交流専攻	社 会	中学校教諭専修免許状
		地理歴史	高等学校教諭専修免許状
		公 民	
音楽研究科	音楽芸術専攻 演奏専攻	音 楽	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状

基礎資格並びに最低修得単位数

所要資格 免許状	基礎資格	本学大学院における授業 科目の最低修得単位数
中学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること	24単位
高等学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること	24単位

注意事項

取得しようとする専修免許状と同教科の中学校教諭一種免許状（旧中学校教諭一級普通免許状）並びに高等学校教諭一種免許状（旧高等学校教諭二級普通免許状）をすでに取得しているか、または教育職員免許法（1998年7月1日施行）による同一種免許状の取得に必要な教科及び教職に関する科目の単位を修得していることを原則とします。

なお、この条件を満たしていない者が教育職員免許状の取得を希望する場合は、入学年度の4月オリエンテーション時までまでに申し出て、指導を受けてください。

単位の修得方法

本学大学院における授業科目の最低修得単位数24単位は、次ページ以降の表に従って修得してください。

教科に関する科目

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。
 △：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【教科に関する科目の最低修得単位】
 24単位

英語：人文科学研究科英語英米文学専攻専門科目

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する 科目	イギリス文学研究 1 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 1 B	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 2 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 2 B	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 3 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 3 B	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 4 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学研究 4 B	(2)	○	○	○
	イギリス文化研究 1 A	(2)	○	○	○
	イギリス文化研究 1 B	(2)	○	○	○
	イギリス文化研究 3 A	(2)	○	○	○
	イギリス文化研究 3 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文学研究 1 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文学研究 1 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文学研究 2 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文学研究 2 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文化研究 1 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文化研究 1 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文化研究 2 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文化研究 2 B	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会研究 1 A	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会研究 1 B	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会研究 2 A	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会研究 2 B	(2)	○	○	○
英語学研究 1 A	(2)	○	○	○	
英語学研究 1 B	(2)	○	○	○	
英語学研究 2 A	(2)	○	○	○	
英語学研究 2 B	(2)	○	○	○	
英語学研究 3 A	(2)	○	○	○	
英語学研究 3 B	(2)	○	○	○	

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する 科目	イギリス文学演習 1 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 1 B	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 2 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 2 B	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 3 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 3 B	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 4 A	(2)	○	○	○
	イギリス文学演習 4 B	(2)	○	○	○
	イギリス文化演習 1 A	(2)	○	○	○
	イギリス文化演習 1 B	(2)	○	○	○
	イギリス文化演習 3 A	(2)	○	○	○
	イギリス文化演習 3 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文学演習 1 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文学演習 1 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文学演習 2 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文学演習 2 B	(2)	○	○	○
	アメリカ文化演習 1 A	(2)	○	○	○
	アメリカ文化演習 1 B	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会演習 1 A	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会演習 1 B	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会演習 2 A	(2)	○	○	○
	北アメリカ歴史・社会演習 2 B	(2)	○	○	○
	英語学演習 1 A	(2)	○	○	○
	英語学演習 1 B	(2)	○	○	○
英語学演習 2 A	(2)	○	○	○	
英語学演習 2 B	(2)	○	○	○	
英語学演習 3 A	(2)	○	○	○	
英語学演習 3 B	(2)	○	○	○	
英語論文演習 1 A	(2)	○	○	○	
英語論文演習 1 B	(2)	○	○	○	
英語論文演習 2 A	(2)	○	○	○	
英語論文演習 2 B	(2)	○	○	○	

国語：人文科学研究科日本語日本文学専攻専門科目

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する 科目	日本文化研究 A	(2)	○	○	○
	日本文化研究 B	(2)	○	○	○
	上代文学研究 A	(2)	○	○	○
	上代文学研究 B	(2)	○	○	○
	中古文学研究 A	(2)	○	○	○
	中古文学研究 B	(2)	○	○	○
	中古文化研究 A	(2)	○	○	○
	古代文化研究 A	(2)	○	○	○
	古代文化研究 B	(2)	○	○	○
	中世文学研究 A	(2)	○	○	○
	中世文学研究 B	(2)	○	○	○
	近世文学研究 A	(2)	○	○	○
	近世文学研究 B	(2)	○	○	○
	近世文化研究 A	(2)	○	○	○
	近世文化研究 B	(2)	○	○	○
	中近世文化研究 A	(2)	○	○	○
	中近世文化研究 B	(2)	○	○	○
	近代文学研究 1 A	(2)	○	○	○
	近代文学研究 1 B	(2)	○	○	○
	近代文学研究 2 A	(2)	○	○	○
	近代文学研究 2 B	(2)	○	○	○
	近現代文学研究 A	(2)	○	○	○
	近現代文学研究 B	(2)	○	○	○
	近代文化研究 A	(2)	○	○	○
	近代文化研究 B	(2)	○	○	○
	歴史日本語学研究 A	(2)	○	○	○
	歴史日本語学研究 B	(2)	○	○	○
	現代日本語学研究 A	(2)	○	○	○
	現代日本語学研究 B	(2)	○	○	○
	日本語教育学研究 A	(2)	○	○	○
	日本語教育学研究 B	(2)	○	○	○
	言語教育学研究 A	(2)	○	○	○
	言語教育学研究 B	(2)	○	○	○

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する 科目	日本語日本文学研究 A	(2)	○	○	○
	日本語日本文学研究 B	(2)	○	○	○
	漢文学研究 A	(2)	○	○	○
	漢文学研究 B	(2)	○	○	○
	日中比較文化研究 A	(2)	○	○	○
	日中比較文化研究 B	(2)	○	○	○
	文献研究 A	(2)	○	○	○
	文献研究 B	(2)	○	○	○
	上代文学演習 A	(2)	○	○	○
	上代文学演習 B	(2)	○	○	○
	中古文学演習 A	(2)	○	○	○
	中古文学演習 B	(2)	○	○	○
	中世文学演習 A	(2)	○	○	○
	中世文学演習 B	(2)	○	○	○
	近世文学演習 A	(2)	○	○	○
	近世文学演習 B	(2)	○	○	○
	近世文化演習 A	(2)	○	○	○
	近世文化演習 B	(2)	○	○	○
	近代文学演習 1 A	(2)	○	○	○
	近代文学演習 1 B	(2)	○	○	○
	近代文学演習 2 A	(2)	○	○	○
	近代文学演習 2 B	(2)	○	○	○
	近現代文学演習 A	(2)	○	○	○
	近現代文学演習 B	(2)	○	○	○
漢文学演習 A	(2)	○	○	○	
漢文学演習 B	(2)	○	○	○	

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

／：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【教科に関する科目の最低修得単位】

24単位

社会：国際交流研究科国際交流専攻専門科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	地球環境論	(2)	○	○	○
	国際スポーツ論	(2)	○	○	○
	地域社会研究総論	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ地域社会研究	(2)	○	○	○
	ラテンアメリカ地域社会研究	(2)	○	○	○
	南アジア地域社会研究	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ文化論	(2)	○	○	○
	アジア文化論	(2)	○	○	○
	日本近現代史研究総論	(2)	○	○	○
	日本歴史文化論	(2)	○	○	○
	日中間の歴史と現在	(2)	○	○	○
	日朝関係の歴史と現在	(2)	○	○	○
	日本の近代と横浜	(2)	○	○	○
	日本の環境問題	(2)	○	○	○
	日本経済の歴史と現在	(2)	○	○	○
グローバルイゼーション研究総論	(2)	○	○	○	

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	現代社会論	(2)	○	○	○
	法秩序と現代社会	(2)	○	○	○
	情報技術と現代社会	(2)	○	○	○
	ジェンダー論	(2)	○	○	○
	国際政治論	(2)	○	○	○
	国際機構論	(2)	○	○	○
	国際政治経済論	(2)	○	○	○
	開発経済論	(2)	○	○	○
	環境と持続可能性	(2)	○	○	○
	キリスト教の現代的課題	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ社会とキリスト教	(2)	○	○	○
	家族と地域社会	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ現代思想	(2)	○	○	○
	ヨーロッパの文化とジェンダー	(2)	○	○	○
	欧米の社会科学と日本の社会科学	(2)	○	○	○
日本社会と移民	(2)	○	○	○	

地理歴史：国際交流研究科国際交流専攻専門科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	地球環境論	(2)	○	○	○
	国際スポーツ論	(2)	○	○	○
	地域社会研究総論	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ地域社会研究	(2)	○	○	○
	ラテンアメリカ地域社会研究	(2)	○	○	○
	南アジア地域社会研究	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ文化論	(2)	○	○	○
	アジア文化論	(2)	○	○	○

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	日本近現代史研究総論	(2)	○	○	○
	日本歴史文化論	(2)	○	○	○
	日中間の歴史と現在	(2)	○	○	○
	日朝関係の歴史と現在	(2)	○	○	○
	日本の近代と横浜	(2)	○	○	○
	日本の環境問題	(2)	○	○	○
	日本経済の歴史と現在	(2)	○	○	○

公民：国際交流研究科国際交流専攻専門科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	グローバルイゼーション研究総論	(2)	○	○	○
	現代社会論	(2)	○	○	○
	法秩序と現代社会	(2)	○	○	○
	情報技術と現代社会	(2)	○	○	○
	ジェンダー論	(2)	○	○	○
	国際政治論	(2)	○	○	○
	国際機構論	(2)	○	○	○
	国際政治経済論	(2)	○	○	○
	開発経済論	(2)	○	○	○

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	環境と持続可能性	(2)	○	○	○
	キリスト教の現代的課題	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ社会とキリスト教	(2)	○	○	○
	家族と地域社会	(2)	○	○	○
	ヨーロッパ現代思想	(2)	○	○	○
	ヨーロッパの文化とジェンダー	(2)	○	○	○
	欧米の社会科学と日本の社会科学	(2)	○	○	○
	日本社会と移民	(2)	○	○	○

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。

／：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【注意事項】

(1) 科目名に網掛け：2023年度以降入学者対象科目。

【教科に関する科目の最低修得単位】

24単位

音楽：音楽研究科音楽芸術専攻専門科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	音楽文化研究1A	(2)	○	○	○
	音楽文化研究1B	(2)	○	○	○
	音楽文化研究2A	(2)	○	○	○
	音楽文化研究2B	(2)	○	○	○
	音楽文化研究3A	(2)	○	-	-
	音楽文化研究3B	(2)	○	-	-
	音楽文化研究4A	(2)	○	-	-
	音楽文化研究4B	(2)	○	-	-
	音楽文化研究5A	(2)	○	-	-
	音楽文化研究5B	(2)	○	-	-
	音楽表現研究1A	(2)	○	-	-
	音楽表現研究1B	(2)	○	-	-
	音楽表現研究2A	(2)	○	-	-
	音楽表現研究2B	(2)	○	-	-
	音楽表現研究3A	(2)	○	-	-
	音楽表現研究3B	(2)	○	-	-
	音楽表現研究4A	(2)	○	-	-
	音楽表現研究4B	(2)	○	-	-
	音楽表現研究5A	(2)	○	-	-
	音楽表現研究5B	(2)	○	-	-
	音楽文化演習1A	(2)	○	○	○
	音楽文化演習1B	(2)	○	○	○
	音楽文化演習2A	(2)	○	○	○
	音楽文化演習2B	(2)	○	○	○
	音楽文化演習3A	(2)	○	-	-
	音楽文化演習3B	(2)	○	-	-
	音楽文化演習4A	(2)	○	-	-
	音楽文化演習4B	(2)	○	-	-
	音楽文化演習5A	(2)	○	-	-
	音楽文化演習5B	(2)	○	-	-
	音楽表現演習1A	(2)	○	-	-
	音楽表現演習1B	(2)	○	-	-
	音楽表現演習2A	(2)	○	-	-
音楽表現演習2B	(2)	○	-	-	
音楽表現演習3A	(2)	○	-	-	
音楽表現演習3B	(2)	○	-	-	
音楽表現演習4A	(2)	○	-	-	
音楽表現演習4B	(2)	○	-	-	
音楽表現演習5A	(2)	○	-	-	
音楽表現演習5B	(2)	○	-	-	

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	音楽・音響メディア表現論A	(2)	○	-	-
	音楽・音響メディア表現論B	(2)	○	-	-
	音楽教育と先端メディアA	(2)	○	-	-
	音楽教育と先端メディアB	(2)	○	-	-
	音楽の学術研究・情報論A	(2)	○	-	-
	音楽の学術研究・情報論B	(2)	○	-	-
	演奏様式研究理論と実践A	(2)	○	-	-
	演奏様式研究理論と実践B	(2)	○	-	-
	音楽家のための事業創造論A	(2)	○	-	-
	音楽家のための事業創造論B	(2)	○	-	-
	アーティストのための身体論A	(2)	○	-	-
	アーティストのための身体論B	(2)	○	-	-
	教会音楽研究理論と実践A	(2)	○	-	-
	教会音楽研究理論と実践B	(2)	○	-	-
	作曲研究1A	(2)	○	○	○
	作曲研究1B	(2)	○	○	○
	応用音楽研究1A	(2)	○	○	○
	応用音楽研究1B	(2)	○	○	○
	応用音楽研究2A	(2)	○	○	○
	応用音楽研究2B	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション研究1A	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション研究1B	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション研究2A	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション研究2B	(2)	○	○	○
	作曲演習1A	(2)	○	○	○
	作曲演習1B	(2)	○	○	○
	応用音楽演習1A	(2)	○	○	○
	応用音楽演習1B	(2)	○	○	○
	応用音楽演習2A	(2)	○	○	○
	応用音楽演習2B	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション演習1A	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション演習1B	(2)	○	○	○
	音楽コミュニケーション演習2A	(2)	○	○	○
音楽コミュニケーション演習2B	(2)	○	○	○	
先端メディア・アート論A	(2)	○	○	○	
先端メディア・アート論B	(2)	○	○	○	
音楽教育ワークショップA	(2)	○	○	○	
音楽教育ワークショップB	(2)	○	○	○	
音楽家のための創出型情報論A	(2)	○	○	○	
音楽家のための創出型情報論B	(2)	○	○	○	

【表の見方】

※開講年度によって教科に関する科目の取り扱いが異なることがあるので注意すること。

○：教科に関する科目の修得単位数に認められる科目。
 ／：教科に関する科目の修得単位数に認められない科目。

【教科に関する科目の最低修得単位】
 24単位

音楽：音楽研究科演奏専攻専門科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	声楽演奏研究 1 A	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 1 B	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 2 A	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 2 B	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 3 A	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 3 B	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 4 A	(2)	○	○	○
	声楽演奏研究 4 B	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 1 A	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 1 B	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 2 A	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 2 B	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 4 A	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 4 B	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 5 A	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 5 B	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 6 A	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 6 B	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 7 A	(2)	○	○	○
	器楽演奏研究 7 B	(2)	○	○	○
声楽作品演習 1 A	(2)	○	○	○	
声楽作品演習 1 B	(2)	○	○	○	

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数	修得年度		
			2023	2022	2021
教科に関する科目	声楽作品演習 2 A	(2)	○	○	○
	声楽作品演習 2 B	(2)	○	○	○
	声楽作品演習 3 A	(2)	○	○	○
	声楽作品演習 3 B	(2)	○	○	○
	声楽作品演習 4 A	(2)	○	○	○
	声楽作品演習 4 B	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 1 A	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 1 B	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 2 A	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 2 B	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 4 A	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 4 B	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 5 A	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 5 B	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 6 A	(2)	○	○	○
	器楽作品演習 6 B	(2)	○	○	○
	演奏様式研究理論と実践 A	(2)	○	○	○
	演奏様式研究理論と実践 B	(2)	○	○	○
	教会音楽指導者育成ワークショップ A	(2)	○	○	○
	教会音楽指導者育成ワークショップ B	(2)	○	○	○
アーティストのための身体論 A	(2)	○	○	○	
アーティストのための身体論 B	(2)	○	○	○	

日本語教員養成講座

2023年度手続きスケジュール (2023/4/1 ~ 2024/3/31)

担当：●教務課／▲養成講座係

	該当ページ	内容	実習関係
4月4日 (火)	p.76	●オリエンテーション	「日本語教育実習」説明会 (履修希望者は全員必須)
4月5日 (水)	—	●履修相談	
4月4日 (火) ~ 5月8日 (月)	p.77		▲校外実習希望届 (個人票添付) 提出 期間 「日本語教育実習ファイル」配付
4月5日 (水)	p.69	●入学前単位認定申請締切 (編入学生)	
4月18日 (火)	p.67	▲講座受講届提出・課程料納入締切 (対象者: 3・4年生、卒業延期者)	日本語教育実習初回授業時に『2022年度 養成講座報告書』配布
5月9日 (火) ~ 5月23日 (火)	p.67	▲講座登録確認期間 (対象者: 3・4年生、卒業延期者)	
5月中旬~下旬	—		(海外・国内実習校決定)
5~7月	—		(国際課説明会等 ※海外実習対象者のみ)
6~7月	pp.76, 78		「日本語教育実習」説明会 (履修者は全員必須) 「地域日本語教育実習」説明会 (履修希望者は全員必須) 「年少者日本語教育実習」説明会 (履修希望者は全員必須)
7~9月	—		(夏季校外実習)
9月22日 (金)	p.69	●「放送大学」講座該当科目認定申請 締切	
9月末日	—		各担当教員へ夏季校外実習ファイル提出
10月13日 (金)	p.69	●「卒業論文」講座該当科目認定申請 締切 (対象者: 4年)	
11月2日 (木)	p.69	●「修士論文」講座該当科目認定申請 締切 (対象者: 博士前期課程2年)	
12~2月	—		(冬季校外実習) 各担当教員へ冬季校外実習ファイル提出
2月26日 (月)	—	●養成講座修了者発表	
3月21日 (木)、 3月22日 (金)	p.58	●養成講座修了証書発行 (学位授与式当日)	
3月22日 (金)	p.69	●「放送大学」講座該当科目認定申請 締切	
4月上旬~5月上旬	—		『2023年度養成講座報告書』刊行・配布

日本語教員養成講座

「日本語教員養成講座」は、日本語を「母語」としない人などに対して日本語を教授する人材（日本語教員）を養成することを目的として設置されている講座です。

現在、日本には290万人以上もの外国籍住民が生活しており、大学や日本語学校などで学ぶ留学生、日本の小・中学校や高等学校で学ぶ外国につながる子どもたち、結婚移住女性、外国人労働者など、さまざまな人々が日本語を学んでいます。また、中国やインドネシア、韓国、オーストラリアなどを中心に日本国外でも400万人近い人々が日本語を学んでいます。日本語教員はそうした人々の教育を専門的に行います。

このような社会的要請に対応するために、日本語日本文学科の専門科目を中心として授業科目を編成し、文化庁のガイドラインをふまえて講座が設けられています。新規の受講希望者は、4月に実施される「日本語教員養成講座オリエンテーション」に必ず出席してください。

ディプロマ・ポリシー

フェリス女学院大学日本語教員養成講座では、日本語の教育を専門的に行うことができる人材の養成を目指し、以下のようなディプロマポリシー（プログラムの到達目標）を掲げています。

- ① 日本語・日本文化に関する幅広い知識や教育実践力を兼ね備えた人材
- ② 日本語を学ぶ多様なバックグラウンドをもつ人々の生活や歴史に寄り添う視点をもったグローバル社会で幅広く活躍できる人材

本講座では、上記の能力を身につけた学生に対して、単位の取得状況により、講座修了証書（専修／主専攻／副専攻）を授与しています。法律に基づいた免許制度はありませんが、講座修了証書が授与されることで、日本語教育の世界へ第一歩を踏み出すことが可能となります。

講座の課程

1. 課程の種類

本講座には、日本語教員養成のために、次の3課程を設置しています。

- 専修課程（60単位）
- 主専攻課程（45単位）
- 副専攻課程（30単位）

なお、講座修了には、学士の資格を有することが基礎資格となります。

2. カリキュラム

講座修了のためには、所定の授業科目・単位を修得する必要があります。履修方法は、次ページ以降を確認してください。

単位の修得には、副専攻で約2年間、専修・主専攻で3年以上かかります。講座科目が他の必修等の科目と同一時限に開講されることが多い場合などには、それ以上の期間を必要としますので、計画的に履修するよう心がけてください。

3. 修了の認定

(1) 対象者

「受講届」を提出し、所定の授業科目・単位を修得して専修課程、主専攻課程、副専攻課程のいずれかの講座を修了した者

(2) 修了証の発行時期

① 学部

3月または9月の卒業と同時に発行

② 大学院・科目等履修

講座の修了が認定され次第発行

カリキュラム

日本語教員養成講座の主な開講科目と各課程の最低修得単位数

2016年度以降入学者

群	主な開講科目	課程と最低修得単位数			
		専修 60単位	主専攻 45単位	副専攻 30単位	
I 言語の 構造と 変異	1.総論	言語学概説, 日本語学概論A・B, など	4単位	4単位	2単位
	2.各論	日本語の形態と構文, 話しことばを分析する, など	8単位	4単位	2単位
		日本語の歴史A・B, 日本語の文体と語法, など	2単位		
3.諸外国語 の研究	日英語の発想と表現, 海外語学実習, など				
II 日本語 教育	日本語教育学概論A・B, 日本語教育研究の方法, など	4単位	4単位	2単位	
		日本語学習のコースデザイン	2単位	2単位	2単位
	日本語教育の教材分析	2単位	2単位	2単位	
	日本語教育文法	2単位	2単位	2単位	
	日本語教授法A	2単位	2単位	2単位	
	日本語教授法B	2単位	2単位		
	日本語教育のための異文化理解, 地域日本語教育実習, 年少者日本語教育実習, など	6単位	4単位	(2017年度以降入学者) 「地域日本語教育実習」 もしくは「年少者日本語教 育実習」を含む2単位以上	
日本語教育実習1・2	3単位	3単位			
III 地球 社会	1.日本社会 の理解	日本経済の歴史, 日米関係史, など	6単位	4単位	2単位
	2.地球社会 の理解	身体としぐさの心理学, 多文化・多言語社会を考える, など	6単位	4単位	2単位
	3.その他	通訳技法, Summer Abroad, など			

日本語教員養成講座履修カリキュラムマップ

標準履修年次	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業時
専修・主専攻を希望	1 総論 言語学概説 日本語学概論 A・B / 日本語コミュニケーション学概論 A・B 言語コミュニケーション概論		2 各論 日本語の形態と構文 / 形態と構文の日本語コミュニケーション学 日本語の敬語 / 日本語敬語コミュニケーション その他 3 諸外国語の研究 (自由選択科目群)		日本語教員養成講座修了 専修 (60単位)、主専攻 (45単位)
	日本語教育学概論 A・B 日本語学習のコースデザイン 日本語教文法 音声教育法		日本語教育研究の方法 日本語教育の教材分析 A 日本語教育の教材分析 B 日本語教授法 A・B 日本語教育の教材分析 B 日本語教育のための異文化理解 第二言語習得論 地域日本語教育実習 年少者日本語教育実習 日本語教育実習1・2 (校外実習含む) *3年次か4年次に前・後期選して履修		
	1 日本社会の理解 教育心理学 日本事情 A・B その他		日本近代文学史 俳句創作を学ぶ 日本史概説 A・B 現代社会に見る日本文化 書道 A・B その他 2 地球社会の理解 対人コミュニケーションの心理学 共生のフィールドワーク 多文化・多言語社会を考える 在日外国人 その他 3 その他 (自由選択科目) Summer Abroad (US) / アメリカ現地実習 Summer Abroad (UK) / イギリス現地実習 Spring Abroad / 北米現地実習 その他		

副専攻を希望	1 総論 言語学概説 日本語学概論 A・B / 日本語コミュニケーション学概論 A・B 言語コミュニケーション概論		2 各論 日本語の形態と構文 / 形態と構文の日本語コミュニケーション学 日本語の意味と語彙 / 日本語コミュニケーション：意味と語彙 3 諸外国語の研究 (自由選択科目群)		日本語教員養成講座修了 副専攻 (30単位)
	日本語教育学概論 A・B 日本語学習のコースデザイン 日本語教文法 音声教育法		日本語教育研究の方法 日本語教育の教材分析 A 日本語教育の教材分析 B 日本語教授法 A・B 日本語教育評価法 日本語教育のための異文化理解 第二言語習得論 地域日本語教育実習 年少者日本語教育実習 (校外実習含む) *2017年度以降入学者は1科目を選択必修		
	1 日本社会の理解 教育心理学 日本事情 A・B その他		日本近代文学史 俳句創作を学ぶ 日本史概説 A・B 現代社会に見る日本文化 書道 A・B その他 2 地球社会の理解 対人コミュニケーションの心理学 共生のフィールドワーク 多文化・多言語社会を考える 在日外国人 その他 3 その他 (自由選択科目) Summer Abroad (US) / アメリカ現地実習 Summer Abroad (UK) / イギリス現地実習 Spring Abroad / 北米現地実習 その他		

2018年度以降入学者用カリキュラム

編入生：2019年度2年次編入生
2020年度2年次、3年次編入生
2021年度2年次、3年次編入生
2022年度2年次、3年次編入生
2023年度2年次、3年次編入生

群	開講科目	各課程の最低修得科目数および単位数
I 言語の構造と変異	1 総論 【文】言語学概論 A、B 言語コミュニケーション概論 【文】日本語教育学・日本語学関係の卒業論文(6単位)(詳しくはp.69)	専修・主専攻：4単位選択必修 副専攻：2単位選択必修 (専修：該当卒業論文は自由選択科目として6単位に認定)
	2 各論 【文】日本語の形態と構文 ことばと記号のコミュニケーション 日本語の音声とアクセント 話しことばを分析する 日本語の意味と語彙 ことばと個人・社会の因果関係を探る 日本語文法研究の方法 日本語語彙研究の方法 日本語音声研究の方法 日本語の歌謡 日本語文法論とコミュニケーション 日本語音声とコミュニケーション 言語行動学 【共通】日本語 I、II (各1単位)	専修：4科目8単位選択必修 主専攻：2科目4単位選択必修 副専攻：1科目2単位選択必修
	3 語の 研究 外国語 【文】日本語の歴史A、B 日本語の文体と語法 日本語日本文学A 専門ゼミ2(担当者：田中) 日本語日本文学専門ゼミA、B(担当者：田中) 日本語日本文学卒業論文ゼミA、B(担当者：田中) コミュニケーションゼミ探求5[非開校] ことばのフィールドワーク 方言研究の方法 日本の漢字の世界 国語辞書 言語と文化 方言と社会言語学 コンピュータと言語学 日本語自然言語処理入門 近代日本語の歴史 歴史言語コミュニケーション概説	専修：2単位選択必修
II 日本語教育	【文】英語と社会・文化1,2 英語と社会・文化 日英語の発想と表現 英語の発音1,2 英語の歴史1,2 英語学1,2 Pronunciation Clinic 英語の歴史 第二言語習得論から見る英語学習 【共通】英語のナラティブ分析 英語学特論1,2,3 初習外国語 教養外国語 初習外国語実習(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)	I-3群の修得科目は自由選択として扱われる (語学科目は3言語、各2単位まで算入できる)
	【文】日本語教育学概論A、B 日本語教育研究の方法 日本語学習のコースデザイン ※1(日本語教育の教材分析 日本語教育文法 日本語教授法A 日本語教授法B 音声教育法 日本語教育のための異文化理解 日本語教育の得論 地域日本語教育実習 年少者日本語教育実習 日本語教育実習1,2(実習1のみ1単位)	専修・主専攻：4単位必修 副専攻：2単位必修 専修・主専攻：※1から6単位必修 ※2から4単位必修 ※1から6単位以上 ※2から2単位以上選択必修 専修：6単位以上選択必修 主専攻：4単位以上選択必修 副専攻：「地域日本語教育実習」もしくは「年少者日本語教育実習」を含む2単位以上選択必修 専修・主専攻：2科目3単位必修 主専攻：4単位以上選択必修 副専攻：「地域日本語教育実習」もしくは「年少者日本語教育実習」を含む2単位以上選択必修 ※4年次途中に専修または主専攻から副専攻に変更し、「地域日本語教育実習」または「年少者日本語教育実習」の単位修得ができない場合などは、「日本語教育実習1」及び「日本語教育実習2」の単位修得をもって替えることができる。

群	開講科目	各課程の最低修得科目数および単位数
1	<p>【文】 日本古典文学史1,2,3,4 日本近代文学史A,B 歌謡の世界 浄瑠璃の世界 漢字の世界 世界の中の日本文化を学ぶ 朗読・アナウンスを学ぶ 書道A,B(各1単位) 文字と文学 コミュニケーション論A,B コミュニケーション研究方法の全体像 民俗文化を読み解く 【国際交流】 日本史概説A,B 近代日本と国際関係 現代の日本経済 日本文化の原風景 現代社会に見る日本文化 日本経済の歴史 横濱学総論 横濱学実習 日米関係史 日本外交史 日本社会史 横濱学 【音楽】 邦楽1,2(非開版)(各1単位) 日本音楽通史(4単位) アナウンス・朗読 【共通】 日本国憲法 【教職】 教育思想 教育心理学 教育社会学 教育方法・技術 生徒・進路指導の理論と方法 教育相談 【日本語・日本事情】 日本語A(9),(12) 日本事情B(3),(12)</p>	<p>専修：3科目6単位選択必修 主専攻：2科目4単位選択必修 副専攻：1科目2単位選択必修</p>
III 地球社会	<p>【文】 対人コミュニケーションの心理学 身体としぐさの心理学 多文化・多言語社会を考える 異文化のコミュニケーション これからの多文化教育 異文化トレンディング 共生のフィールドワーク(4単位) 社会前行為としてのコミュニケーション デイアスボラ(難敵)の思想 先住民の言語・文化と共生 グローバル化する人の移動の社会学 フアンリテーターの理論と実践A,B 異文化コミュニケーションの理論と実践 【国際交流】 在日外国人 移住と文化の理論 グローバル化する社会 世界の格差と国際協力 地域の国際交流・協力 ロシアと現代中国 近現代中国思想と日本 SDGs入門 ことばとフィールド(ヴェトナム),(タイ),(インドネシア),(フィリピン)</p>	<p>専修：3科目6単位選択必修 主専攻：2科目4単位選択必修 副専攻：1科目2単位選択必修</p>
3	<p>【上】 古代文学研究の方法 中世文学研究の方法 中世文学研究の方法 近世文学研究の方法 近現代文学研究の方法 Spring Abroad Summer Abroad(US) Summer Abroad(UK) 通訳技法1,2 通訳技法 【国際交流】 専門科目(該当しない科目一覧はb.66の注意事項(1)参照)</p>	<p>III-3群の修得科目は自由選択として扱われる</p>
その他		<p>自由選択 選択必修 49単位以上 11単位以下 37単位以上 8単位以下 20単位以上 10単位以下</p>

表中の【文】【国際交流】【音楽】は各学部の開講科目群、単位数の表記がない科目は2単位である。専修課程修了のために最低8単位必修であることを「専修：8単位必修」と表示してある。「主専攻課程」は主専攻、「副専攻課程」は副専攻と略している。 I-3群、III-3群の単位、及びそれ以外の群の規定以上に修得した単位は自由選択の単位となる。

2017年度以前入学者

2021年度学生要覧を参照してください。

講座履修チェックシート

最新の成績と下表を参照しながら、修得済み単位数をチェックし、単位のとりこぼし防止に役立てましょう。
 チェック方法は、p.65で確認してください。

2016年度以降入学者

群	開講学科	単位数	開 講 科 目	履修年次	備考 ^{※1}	選択必修最低修得科目数及び単位数			選択必修修得科目及び単位					
						専修	主専攻	副専攻						
I 言語の構造と変異	1 総論	日文	2	言語学概説	12		4単位以上	2単位以上	() 単位					
		日・コ	2	日本語学概論A/日本語コミュニケーション学概論A	12									
		日・コ	2	日本語学概論B/日本語コミュニケーション学概論B	12									
		コミュ	2	言語コミュニケーション概論	123									
	2 各論	日文	6	日本語教育学/日本語学関係の卒業論文(専/のみ認定)(要申請(p.69参照))	4		(自由選択科目)			(自由選択科目)				
		日・コ	2	日本語の形態と構文/形態と構文の日本語コミュニケーション学	234	2019まで	4科目以上	2科目以上	1科目以上	() 科目				
		コミュ	2	ことばと記号のコミュニケーション	1234									
		日・コ	2	日本語の音声とアクセント/日本語音声とコミュニケーション	234									
		日	2	日本語の音声とアクセント	234									
		コミュ	2	日本語音声とコミュニケーション	1234									
		コミュ	2	話しことばを分析する	123									
		コミュ	2	ことばと個人・社会の因果関係を探る	1234									
		日・コ	2	日本語の意味と語彙/日本語コミュニケーション:意味と語彙	234									
		日文	2	日本語文法研究の方法	234									
		日文	2	日本語語彙研究の方法	234									
		日文	2	日本語音声研究の方法	234									
		日・コ	2	日本語の敬語/日本語敬語コミュニケーション	234									
		コミュ	2	日本語文法論とコミュニケーション	1234									
		コミュ	2	言語行動学	234									
		共通	1	日本語Ⅰ	1234									
共通	1	日本語Ⅱ	1234											
3 諸外国語の研究	日・コ	2	日本語の歴史A/日本語コミュニケーションの歴史A	12	2016まで	2単位以上	※2		() 単位					
	日・コ	2	日本語の歴史B/日本語コミュニケーションの歴史B	12										
	日・コ	2	日本語の文体と語法/文体と語法の日本語コミュニケーション学	234										
	日文	2	日本語日本文学プレ専門ゼミ2 (担当者:田中)	2										
	日文	1	日本語日本文学専門ゼミA/日本語文化 (担当者:田中)	3										
	日文	1	日本語日本文学専門ゼミB/日本語文化 (担当者:田中)	3										
	日文	1	日本語日本文学卒論ゼミA/日本語文化 (担当者:田中)	4										
	日文	1	日本語日本文学卒論ゼミB/日本語文化 (担当者:田中)	4										
	コミュ	2	コミュニケーション学探求5	2										
	コミュ	2	ことばのフィールドワーク	1234										
	日文	2	方言研究の方法	234										
	日文	2	日本の漢字と国語辞書	234										
	日文	2	言語と文化	1234										
	日文	2	方言と社会言語学	234										
	日文	2	コンピュータと言語学	234										
	日文	2	日本語自然言語処理入門	234										
	日文	2	近代日本語の世界	234										
	コミュ	2	歴史言語コミュニケーション概説	1234										
	英文	2	英語と社会・文化	234						2022まで	(自由選択科目)			(自由選択科目)
	英・コ	2	英語と社会・文化1/社会・文化と英語コミュニケーション	234										
英・コ	2	英語と社会・文化2	234											
英文	2	日英語の発想と表現	1234											
英文	2	英語の発音1	1234											
英文	2	英語の発音2	1234											
英文	2	英語の歴史1	1234											
英文	2	英語の歴史2	1234											
英文	2	英語学1	1234											
英文	2	英語学2	1234											
英文	2	Pronunciation Clinic	1234											
英文	2	英語の歴史	1234											
英文	2	第二言語習得論から見る英語学習	1234											
英文	2	英語のナラティブ分析	1234											
英・コ	2	英語学特論1/第二言語習得の英語コミュニケーション学	234											
英文	2	英語学特論2	1234											
英文	2	英語学特論3	1234											
共通	各1	初習外国語	1234											
共通	各1	教養外国語	1234											
共通	各2	海外語学実習(仏、独、西、中、朝)	1234											

群	開講学科	単位数	開 講 科 目	履修年次 ^{※4}	備考 ^{※1}	選択必修最低修得科目数及び単位数			選択必修修得済科目及び単位
						専修	主専攻	副専攻	
II 日本語教育	日文	2	日本語教育学概論A	12					
	日文	2	日本語教育学概論B	12		4単位以上	4単位以上	2単位以上	
	日文	2	日本語教育研究の方法	234					
	日文	2	日本語学習のコースデザイン	前提科目 123		2単位	2単位	2単位	
	日文	2	日本語教育の教材分析	前提科目 234		2単位	2単位	2単位	
	日文	2	日本語教育文法	前提科目 1234		2単位	2単位	2単位	
	日文	2	日本語教授法A	前提科目 234		2単位	2単位	2単位以上	
	日文	2	日本語教授法B	前提科目 234		2単位	2単位		
	日文	2	日本語教育評価法		2016まで			2単位以上	
	日文	2	日本語教育のための異文化理解	234		6単位以上	4単位以上	(2017年度以降入学者)「地域日本語教育実習」もしくは「年少者日本語教育実習」を含む2単位以上	
	日文	2	第二言語習得論	234					
	日文	2	音声教育法	123					
	日文	2	地域日本語教育実習	234					
	日文	2	年少者日本語教育実習	234					
	日文	1	日本語教育実習1	34		2科目3単位		※3	() 科目
日文	2	日本語教育実習2	34					() 単位	

群	開講学科	単位数	開 講 科 目	履修年次 ^{※4}	備考 ^{※1}	選択必修最低修得科目数及び単位数			選択必修修得済科目及び単位	
						専修	主専攻	副専攻		
Ⅲ 地球社会	1 日本社会の理解	2	日本古典文学史1	12	2022まで	↑	↑	↑	↑	
		2	日本古典文学史2	12						
		2	日本古典文学史3	12						
		2	日本古典文学史4	12						
		2	日本古典文学史(古代)(1)/(2)	12						
		2	日本古典文学史(中近世)(1)/(2)	12						
		2	日本近代文学史A	12						
		2	日本近代文学史B	12						
		2	漢文学概説A	12						
		2	漢文学概説B	12						
		2	能・狂言の世界	1234						
		2	歌舞伎の世界	1234						
		2	浄瑠璃の世界	1234						
		2	漢字の世界	1234						
		2	キリスト教と日本文学	2017まで						
		2	国際日本文学研究を学ぶ	2016まで						
		2	世界の中の日本文学を学ぶ	1234						
		2	俳句創作を学ぶ	2017まで						
		2	朗読・アナウンスを学ぶ	1234						
		1	書道A	2						2022まで
		1	書道B	2						2022まで
		1	書道	2						
		2	文字と文学	234						
		コミュ	2	ビジネス・コミュニケーションスキル						1234
		コミュ	2	コミュニケーション研究方法の全体像						123
		日文化	2	民俗文化を読み解く						234
		国	2	日本史概説A						1234
		国	2	日本史概説B						1234
		国	2	近代日本と国際関係						1234
		国	2	現代日本と国際関係						1234
		国	2	日本文化の原風景						1234
		国	2	現代社会に見る日本文化						1234
		国	2	日本経済の歴史						1234
		国	2	現代の日本経済						1234
		国	2	横浜学総論						1234
		国	2	横浜学実習						1234
		国	2	日米関係史						234
		国	2	現代日本の経済問題						234
		国	2	日本外交史						1234
		国	2	日本社会史						1234
		国	2	横浜学						1234
		音	1	邦楽1						234
音	1	邦楽2	234							
音	4	日本音楽通史	12							
音	2	アナウンス・朗読	234							
共通	2	日本国憲法	1234							
共通	2	転換の時代を生きる(1)	2016まで							
共通	2	転換の時代を生きる(2)	2016まで							
教職	2	教育原理	1234							
教職	2	教育思想	1234							
教職	2	教育心理学	1234							
教職	2	教育社会学	1234							
教職	2	教育方法・技術	23							
教職	2	生徒・進路指導の理論と方法/生徒指導	23							
教職	2	教育相談	23							
日本語・日本事情	2	日本事情A(9)	1234							
日本語・日本事情	2	日本事情A(12)	1234							
日本語・日本事情	2	日本事情B(3)	1234							
日本語・日本事情	2	日本事情B(12)	1234							

群	開講学科	単位数	開 講 科 目	※4 履修 年次	備考※1	選択必修最低修得科目数及び単位数			選択必修修得 科目及び単位
						専修	主専攻	副専攻	
Ⅲ 地球社会	2 地球社会の理解	2	対人コミュニケーションの心理学	1234		3科目以上 6単位以上	2科目以上 4単位以上	1科目以上 2単位以上	() 科目 () 単位
		2	身体としぐさの心理学	1234					
		2	多文化・多言語社会を考える	1234					
		2	異文化のコミュニケーション	1234					
		2	これからの多文化教育	1234					
		2	異文化トレーニング	1234					
		2	グローバル化する人の移動の社会学	1234					
		4	共生のフィールドワーク	1234					
		2	社会的行為としてのコミュニケーション	1234					
		2	ディアスポラ（難民）の思想	234					
		2	先住民の言語・文化と共生	1234					
		2	ファンリテーターの理論と実践A	1234					
		2	ファンリテーターの理論と実践B	1234					
		2	異文化コミュニケーションの理論と実践	234					
		2	在日外国人	1234					
		2	移住と文化の理論	234					
		2	グローバル化する社会	1234					
		2	世界の格差と国際協力	234					
		2	地域の国際交流・協力	234					
		2	ロシアと現代中国	234	2022まで				
		2	近現代中国思想と日本	234	2022まで				
		2	SDGs入門	1234					
		2	ことばとフィールド（ヴェトナム）	1234					
		2	ことばとフィールド（タイ）	1234					
		2	ことばとフィールド（インドネシア）	1234					
		2	ことばとフィールド（フィリピン）	1234					
		3 その他	2	2	上代文学研究の方法				
2	中古文学研究の方法			234	日文のみ				
2	中世文学研究の方法			234	日文のみ				
2	近世文学研究の方法			234	日文のみ				
2	近現代文学研究の方法			234	日文のみ				
2	Summer Abroad(US)/アメリカ現地実習			1234					
2	Summer Abroad(UK)/イギリス現地実習			1234					
2	Spring Abroad / 北米現地実習			123					
2	通訳技法1			234	2022まで				
2	通訳技法2/通訳技法B			234	2022まで				
2	通訳技法	234							
		各自計算	専門科目						
※1 「20xxまで」は、20xx年度入学生までの意。他年度も同様 ※2 必修ではないが、修了単位として算入可 ※3 4年次途中で専修または主専攻から副専攻に変更し、「地域日本語教育実習」または「年少者日本語教育実習」の単位修得ができない場合などは、「日本語教育実習1」及び「日本語教育実習2」（校外実習を含む）の単位修得をもって替えることができる。（「地域日本語教育実習」「年少者日本語教育実習」の履修までの流れは、p.78参照。） ※4 カリキュラム上、推奨している履修年次のこと。自分の年次より低い配当年次の科目は履修することが可能。									
						必要修得単位数			
						専修課程：60単位			
						主専攻課程：45単位			
						副専攻課程：30単位			
						選択必修単位	自由選択単位		
						49単位以上	11単位以下		
						37単位以上	8単位以下		
						20単位以上	10単位以下		

修得単位数のチェック方法

- 履修済み（単位修得済み）の科目をチェックする。
- 各群の単位数を満たすとともに、科目数を満たす必要があるため、「選択必修最低修得科目数及び単位数」を参考に「選択必修修得済科目及び単位」欄に修得済み科目数・単位数を記入し、選択必修単位の修得漏れがないかチェックする。

表の見方

- (1) 開講学科：開講科目表のどの学部・学科のページに記載されているかを示している。なお、開放科目であればどの学部の科目でも履修可。
開放科目は、開講科目表の各ページに▲で示す。
- (2) アミカケは「日本語教育実習1,2」の履修前提科目。前提条件を満たさなければ履修不可なので注意すること。

履修前提条件について

- (1) 「日本語教育実習1,2」の履修条件

入学年度	必修科目	条件
2016年度以降入学者	「日本語学習のコースデザイン」	全て修得
	「日本語教育の教材分析」	
	「日本語教育文法」	
	「日本語教授法 A または B」*	

※「日本語教授法 A または B」は2科目とも修得済みであることが望ましいが、1科目は「日本語教育実習1,2」と並行履修可。並行履修で「日本語教育実習1,2」を履修する場合、校外実習はその並行履修する科目の受講を終えた後に行う。

(例)

前期：「日本語教授法 A」「日本語教育実習1」を並行履修する場合⇒夏季休業または春季休業に校外実習へ参加
後期：「日本語教授法 B」「日本語教育実習2」を並行履修する場合⇒春季休業に校外実習へ参加

- (2) 「日本語教育実習1,2」は原則として同一年度に、同一担当者の科目を1(前期)→2(後期)の順で履修すること。
- (3) 科目等履修生には(2)の条件を適用しない。

注意事項

- (1) III-3群：国際交流学部の専門科目については、以下の科目を除く。
「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「農環境体験実習」「海外エコツーリズム実習」「専門演習」「卒業論文」
- (2) 修得した単位は、一つの群にのみ算入可能とする。
- (3) 重複履修科目を複数回履修しても、本講座においては1科目としてカウントする。

講座受講の手続き

1. 課程の受講登録

「日本語教員養成講座修了証書」の取得を希望する3年次生は、所定の期日までに下記の要領で「日本語教員養成講座受講届」を提出してください。なお、3年次に提出できなかった場合は4年次での提出も認められます。

2022年度以前に講座課程料を納入し、年度末に卒業資格が得られなかった学生は、改めて「日本語教員養成講座受講届」を下記期日までに提出してください。この場合、講座課程料は不要です。

※大学院生・科目等履修生についても、必ず「日本語教員養成講座受講届」を提出すること。

※3年次に受講届の提出及び講座課程料の納入を済ませた場合には4年次では不要。

届出用紙	FerrisPassport 掲示板からダウンロード
講座課程料	10,000円
提出期限	2023年4月18日(火) 16:00まで
提出場所	詳細は FerrisPassport でお知らせします。

専修・主専攻・副専攻の課程の選択は、最終的に修得した授業科目及び単位数によって決定されます。

2. 登録確認

日本語教員養成講座受講者一覧を掲示しますので、必ず確認してください。訂正、遅延登録を希望する者は、登録確認期間中に日本語教員養成講座係に願い出て、許可された場合のみ遅延登録が認められます。登録確認期間を過ぎた後には一切受け付けないので注意してください。

受講者一覧発表日	2023年5月9日(火)
登録確認期間	2023年5月9日(火)～5月23日(火)

3. 「日本語教育実習」履修希望届」の添付書類(専修・主専攻課程のみ)

「日本語教育実習1・2」の履修前提科目が確実に履修されているかどうかを確認するため、専修・主専攻課程希望者は、履修前提科目を確認し、既に履修済みの科目について、FerrisPassport 成績照会画面の該当科目名にマーカーを引いて、提出してください。重複履修の場合は、1つのみにマークしてください。

履修前提科目(マーカーを引く科目)

2016年度以降入学者

・「日本語学習のコースデザイン」 ・「日本語教育の教材分析」 ・「日本語教育文法」 ・「日本語教授法 A または B」※	} 10単位分
マーカーの合計：5箇所	

※「または」:2科目とも修得済みであることが望ましいが、1科目は「日本語教育実習1,2」と並行履修可。

大学院科目の専修課程単位算入

専修課程修了を目指す大学院生及び科目等履修生については、下記の大学院の開講科目を本講座の単位として認定します。なお、専修課程修了単位に不足が生じた場合、下記科目修得単位を主専攻課程、副専攻課程修了のための単位として算入することはできません。

専攻	科目	区分		備考
英語 英米文学専攻	英語学研究3A,B 英語学演習1A,B 英語学演習2A,B	I -3	諸外国語の研究	
	コミュニケーション研究 A,B	III -1	日本社会の理解	
	上記以外の科目	III -2	地球社会の理解	修士論文指導を除く
日本語 日本文学専攻	歴史日本語学研究 A,B 現代日本語学研究 A,B 日本語教育学研究 A,B 言語教育学研究 A,B 日本語学演習 A,B 現代日本語学演習 A,B 日本語教育学演習 A,B	I -2	言語の構造と変異・各論	
	上記以外の科目	III -1	日本社会の理解	修士論文指導を除く
コミュニケーション学専攻	言語コミュニケーション演習1A,B 言語コミュニケーション研究1A,B 言語コミュニケーション研究2A,B 言語コミュニケーション演習3B 言語コミュニケーション研究3A,B	I -2	言語の構造と変異・各論	
	上記以外の科目	III -2	地球社会の理解	修士論文指導を除く
国際交流専攻	全ての科目	III -2	地球社会の理解	修士論文指導を除く
各専攻	修士論文指導	I -1	言語の構造と変異・総論	言語学関係

1. 履修上の注意

- (1) 各課程の最低修得単位数を満たしていても、修得科目数を満たしていない場合は、その課程を修了することはできない。
- (2) 重複履修可能科目を複数回単位修得しても、本講座においては1科目として認定する。
例：「日本語の音声とアクセント」「日本語の音声とアクセント(1)」「日本語の音声とアクセント(2)」をそれぞれ単位修得しても、本講座では1科目として認定する。
- (3) 修得した単位は、一つの群にのみ算入可能とする。

講座の単位認定

他大学等で修得した科目、「卒業論文」「修士論文指導」について、本学の「日本語教員養成講座」として単位認定を希望する者は、申請書類（教務課備付）の提出及び所定の手続きによって申請してください。日本語教員養成講座委員会で審議の上、認定の可否を決定します。

	種類	対象	手続（提出先は全て教務課）
入学前	(1) 他大学等	本学への入学以前に他の大学又は短期大学において修得した科目	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：入学年度前期4月5日（水）
在学中（大学）	(2) 同志社女子大学（交流学生）	同志社女子大学「日本語教員課程」にて修得した科目 ただし、「日本語教育実習」は必ず本学の科目を履修しなければなりません。	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：教務課に問い合わせてください。
	(3) 放送大学（特別聴講学生）	修得した放送大学科目	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：前期9月22日（金） 後期3月22日（金）
	(4) 他大学等（交換・認定留学、横浜市内単位互換、科目等履修制度等）	他大学等における科目等履修生制度により修得した科目 ただし、「日本語教育実習」は必ず本学の科目を履修しなければなりません。	提出物：申請書類、「履修要覧」「講義内容」のコピー、成績証明書 期 限：教務課に問い合わせてください。
在学中（大学院）	(5) 卒業論文	日本語教育や日本語の研究に関するもの（6単位）。ただし、専修課程に限ります。	提出物：申請書類（指導教員及び日本語学・日本語教育学分野の専任教員の署名捺印が必要） 期 限：「卒業論文題目届」とともに10月13日（金）
	(6) 修士論文指導	言語の研究に関するもの（4単位）。ただし、専修課程に限ります。	提出物：申請書類（指導教員及び日本語学・日本語教育学分野の専任教員の署名捺印が必要） 期 限：「修士論文題目届」とともに11月2日（木）

- ・卒業や退学時に単位が不足していても、本学における科目等履修制度によって単位を充足した場合には、修了証を取得することができます。なお、修了単位数等の規定は、卒業後2年間までは入学時の制度により、それ以降の場合には申請時の制度によるものとします。

日本語教育の主要事項と対応科目 2023

日本語教育能力検定試験の出題範囲（一部）に従った分類			フェリスで対応している科目	
(1) 社会・文化・地域	世界と日本	世界と日本の社会と文化	(文学部・国際交流学部科目)	
		日本の在留外国人施策	日本語教育学概論 A	未定
	異文化接触	多文化共生 (地域社会における共生)		
	日本語教育の歴史と現状	日本語教育史		
言語政策				
(2) 言語と社会	言語と社会の関係	日本語の試験	日本語学習のコースデザイン	遠藤 ゆう子
		世界と日本の日本語教育事情	日本語教育学概論 A	未定
		社会言語学	方言と社会言語学	鎌水 兼貴
	言語使用と社会	言語政策と「ことば」	日本語教育学概論 A	未定
		コミュニケーションストラテジー	第二言語習得論	古屋 憲章
		待遇・敬意表現	日本語学概論 B	松崎 安子
異文化コミュニケーションと社会	異文化コミュニケーションの理論と実践	異文化コミュニケーションの理論と実践	松崎 安子	
	多文化・多言語主義	現代アメリカ論 1	中川 正紀	
(3) 言語と心理	言語理解の過程	談話理解	日本語 I	石井 晴奈
		言語学習	第二言語習得論	古屋 憲章
	言語習得・発達	習得過程 (第一言語・第二言語)		
		学習ストラテジー	異文化コミュニケーションの理論と実践	松崎 安子
(4) 言語と教育	言語教育法・実習	異文化受容・適応	異文化コミュニケーションの理論と実践	松崎 安子
		日本語の学習・教育の情意的側面	第二言語習得論	古屋 憲章
		日本語教師の資質・能力	日本語教育学概論 B	古屋 憲章
		日本語教育プログラムの理解と実践	日本語学習のコースデザイン	遠藤 ゆう子
		教室・言語環境の設定	日本語教育学概論 B	古屋 憲章
		コースデザイン	日本語学習のコースデザイン	遠藤 ゆう子
		教授法	日本語教授法 A	遠藤 ゆう子
		教材分析・作成・開発	日本語教育の教材分析	長嶺 倫子
		評価法	日本語学習のコースデザイン	遠藤 ゆう子
		授業計画	日本語教育実習1・2	遠藤 ゆう子
	教育実習	古屋 憲章		
	異文化間教育とコミュニケーション教育	中間言語分析	第二言語習得論	古屋 憲章
		授業分析・自己点検能力	日本語教育実習1・2	遠藤 ゆう子 古屋 憲章 長嶺 倫子
	言語教育と情報	目的・対象別日本語教育法	地域日本語教育実習	田中 里奈
異文化間教育とコミュニケーション教育		異文化コミュニケーション コミュニケーション教育	日本語教育のための異文化理解	河先 俊子
(5) 言語	言語教育と情報	日本語教育と ICT	日本語教育の教材分析	長嶺 倫子
		著作権	言語学概説	千葉 庄寿
	言語の構造一般	一般言語学		言語行動学
		対照言語学	日本語教育文法	津留崎 由紀子
	日本語の構造	日本語教育のための日本語分析		日本語教育文法
		日本語教育のための音韻・音声体系	日本語学概論 A	
		日本語教育のための文字と表記	日本語学概論 B	
		日本語教育のための形態・語彙体系	日本語学概論 A	
		日本語教育のための文法体系	日本語学概論 B	
		日本語教育のための意味体系	日本語学概論 A	
	日本語教育のための語用論的規範	日本語学概論 B		
コミュニケーション能力	受容・理解能力	(文学部科目)	異文化コミュニケーションの理論と実践	松崎 安子
	言語運用能力			
	社会文化能力			
	対人関係能力			
	異文化調整能力			

2023年度 養成講座Ⅰ・Ⅱ群（言語の構造と変異・日本語教育）時間割

上段：前期、下段：後期

	月	火	水	木	金
1		日本語教育の教材分析		英語学特論3 日本語教育学概論B	
	日本語教授法B		日本語教育のための異文化理解	英語学特論2 第二言語習得論	
2	日本の漢字と国語辞書 日本語教授法A 日本語教育研究の方法	英語のナラティブ分析 日本語教育実習1（長嶺）		日本語日本文学専門ゼミA（田中） 日本語日本文学卒論ゼミA（田中） 日本語教育実習1（古屋）	
	日本語学習のコースデザイン 日本語の文体と語法	日本語教育文法 日本語教育実習2（長嶺） 話しことばを分析する		日本語日本文学専門ゼミB（田中） 日本語日本文学卒論ゼミB（田中） 日本語教育実習2（古屋）	
3	言語コミュニケーション概論 日本語教育実習1（遠藤）		日本語Ⅰ		
	日本語日本文学プレ専門ゼミ2 ^{※1} 日本語音声とコミュニケーション 日本語教育実習2（遠藤） 日本語の歴史B	日本語の形態と構文	日本語Ⅱ 近代日本語の世界 言語学概説	日本語日本文学プレ専門ゼミ2 ^{※1} ことばのフィールドワーク 日本語音声研究の方法	日本語教育学概論A
4	日本語の歴史A	英語の歴史	Pronunciation Clinic 方言研究の方法	日本語学概論A	
	日本語文法論とコミュニケーション	英語の歴史	Pronunciation Clinic 日本語の意味と語彙 日本語自然言語処理入門	日本語学概論B	方言と社会言語学
5	ことばと個人・社会の因果関係を探る		Pronunciation Clinic		
		第二言語習得論から見る英語学習	Pronunciation Clinic		
集中	ことばと記号のコミュニケーション				
	言語行動学				
	日本語教育のための異文化理解				
時外	音声教育法				
	日本語の敬語				
	地域日本語教育実習				

※1 週2回開講

以下は2023年度休講

「日英語の発想と表現」「英語学特論1」「英語と社会・文化1」「英語と社会・文化2」「日本語語彙研究の方法」「年少者日本語教育実習」「日本語の音声とアクセント」「コミュニケーション学探求5」「歴史言語コミュニケーション概説」

以下は2023年度未定

「日本語教育学概論A」

よくある質問 Q&A

【講座の中身説明編】

キーワード	Q	A
そもそも	日本語教員養成講座とは何ですか。	外国人に対して日本語を教授する人材を養成することを目的として設置している講座です。日本語日本文学科専門科目を中心に構成されていますが、学部・学科を問わず、履修が可能です。
課程の種類	専修、主専攻と副専攻の違いは何ですか。	専修、主専攻と副専攻では、求められる学修時間の総量が大きく異なります。また、専修、主専攻では、日本語学校等で教壇実習を行う「日本語教育実習」が必修です。副専攻では、小学校等で日本語指導ボランティア等を行う「地域日本語教育実習」又は「年少者日本語教育実習」が必修です。
課程の選択	課程の種類（主専攻か、副専攻かなど）は、いつ決めるのですか。	最終的に（卒業時まで）に修得した授業科目及び単位数によって決定されます。3・4年次に演習（ゼミ）や専門科目と時間割が重なり、講座の選択必修科目が履修できないことがあります。早い段階で計画を立ててください。
課程の変更	課程を変更する場合は、何か手続きは必要ですか。	不要です。最終的に修得要件を満たした課程が修了となります。
どれくらい	何をどれくらい取ったら良いのですか。	『課程』の種類によって修得すべき単位数、科目が定められていますので、履修計画を立ててください。
資格の意味	教員免許と同じような資格と考えてよいのですか。	文部科学省が定めるガイドライン（※1）をふまえ、各大学が独自にカリキュラムを組み、講座を設置しています。各大学が修了証を発行しますので、各都道府県教育委員会が発行する教員免許とは性格が異なります。
専修とは？	「専修」は大学院まで行かないと取れませんか。	学部卒業時に取得可能です。ただし、1年次から講座修了に必要な科目を中心的に取る必要があります。
「前提科目」「段階性」	履修前提科目とは何ですか。「段階的に、計画的に取る」とはどういうことですか。	「日本語教育実習1,2」を履修するためには、実習科目履修の前年度までに修得しておく必要がある科目があります。詳細は p.66 で確認してください。このように、あらかじめ履修することが義務づけられている科目を履修前提科目といえます。これらの順序を守って履修することが「段階的に取る」ということです。
前提科目	履修前提科目が取れていない場合は、並行して履修しながら、「日本語教育実習1,2」を取ることもできますか。	履修前提科目を全て修得していない場合は、認められません。履修登録をしても無効となり、取り消すことになります。
実習	「日本語教育実習1,2」は、実際に日本語学習者を前にして行うのですか。	そうです。国内または海外の協定校での実習または外部機関での実習となります。
	教育実習に行かないと修了できないのですか。	専修、主専攻は「日本語教育実習1,2」、副専攻は「地域日本語教育実習」又は「年少者日本語教育実習」が必修ですので、これらの科目を未修得の場合は修了できません。
	「日本語教育実習1,2」と「地域日本語教育実習／年少者日本語教育実習」の違いは何ですか。	「日本語教育実習1,2」は教壇に立ち、多数の生徒を相手に講義を行う実習です。それに対し、「地域日本語教育実習／年少者日本語教育実習」は、1～2名程度の生徒を対象に個別指導を行う実習です。
	「日本語教育実習1,2」の実習校は、自分で探すのですか。	現在、国内の日本語学校等を約11校、海外を1校（中国または台湾）紹介しています。専修、主専攻では希望調査、書類審査により講座委員会が各人の実習校を決めますが、協定校が紹介されない場合、またそれを希望しない場合、各自で探すことになります。
	「日本語教育実習1,2」の実習期間とフェリスの授業が重なった場合は、公欠扱いになりますか。	実習期間とフェリスの授業が重なるケースはほとんどありませんが、その場合は、教務課に申し出てください。「欠席届」を発行しますので、各自で「欠席する授業の担当者」に提出してください。ただし、「欠席届」は「欠席の理由」を示すもので、欠席の扱いは科目担当者の判断となります。「公欠扱い」という制度はありません。

【手続き編（受講から修了まで）】

キーワード	Q	A
講座の受講	受講を開始する前に手続きが必要ですか。	1・2年次は必要ありませんが、「日本語教員養成講座修了証書」の取得を希望する3年次生は「日本語教員養成講座受講届」を提出してください。
期間	修了までに何年かかりますか。	講座科目を優先的に履修した場合でも、副専攻で約2年間、専修・主専攻で3年以上を要します。
修了証書	修了証書はいつ発行されますか。	卒業時に交付します。(学位記に添付)
講座受講届	「講座受講届」とは何でしょうか。	大学側が、受講者の希望する課程の種類、修得済みの科目の状況などを把握するためのもので、講座の運営に利用しています。これを提出することではじめて講座を受講していることになります。提出しないと単位を取っていても修了者として認定されません。
講座課程料	修了できない場合、「講座課程料」は返金されますか。	日本語教員養成講座の運営に必要な費用として納入するもので、「修了証書」の発行手数料ではありません。したがって、最終的に修了できない場合でも、返金はしません。ただし、卒業後、科目等履修生等で単位を取り、修了する場合、新たに課程料を納入する必要はありません。

【よくある相談・噂編】

キーワード	Q	A
国際は不利？	国際交流学科の学生は、(専修・主専攻が) 取れないと聞きましたが、本当ですか。	1年次から計画的に履修すれば、専修・主専攻も修了することが可能です。講座カリキュラムには国際交流学科の専門科目も含まれています。
日文は取りやすい？	日文の学生が有利と聞きましたが、どういことでしょうか。	講座のカリキュラムが日本語日文学科の専門科目を中心に編成されているので、他学科よりも比較的取りやすいという意味です。日本語教育学・日本語学のゼミで指導を受けながら卒業論文を書き、それを専修課程の単位(6単位)に算入することも可能です。
今からでも間に合う？	1年次の後期から始めることもできますか。	可能です。専修・主・副専攻のうち、どれを目指すのかよく考えて履修計画を立ててください。
	2年次の後期から始めることもできますか。	これまでに修得した科目の中に、講座修了に必要な科目があるか、「履修前提条件」を満たしているか等によります。卒業時までに取り終えることができるかどうか、チェックしてみてください。「チェックシート」(pp.62～66)を利用してください。(わからない場合は、FerrisPassportの成績照会画面を印刷したものを持参して教務課の窓口で問い合わせてください。)
進路	修了すると、すぐ日本語教員になれますか。	募集の状況にもよりますが、副専攻以上の資格に加え、大学院修士課程修了や、「日本語教育能力検定試験」に合格するなど、採用する側が重視する履歴を積み重ねていくとより有利になります。
インテンシブ	英語(初習外国語) インテンシブ・コース希望(履修中)ですが、日本語教員もめざしたい。両立はできますか。	時間割の点から言えば、語学は主に1・2限(つまり午前中)に開講されており、専門科目と重なることはないように配慮されています。インテンシブ・コースと主専攻(または副専攻)の両方を修了した先輩は複数います(※2)。1年次から確実に、計画的に単位を取っていけば無理ではありません。
窓口	日本語教員養成講座に関する事で質問がある場合、どこに問い合わせればよいですか。	学期始めの履修相談を利用するほか、実習手続きや提出物については7号館3階言語センター内の日本語教員養成講座係までお問い合わせください。単位についての質問は教務課で受け付けます。
時間割重複	修了に必要な科目と、指定クラス(語学、「キリスト教」、ゼミなど)の時間割が重なっています。クラスを変更できますか。	指定クラスが優先なので、1年次前期に履修できない場合は1年次後期に履修してください。時間割重複がない科目で、1年次から履修可能なもの(履修年次が1234となっているもの)はできるだけ履修するという方針で計画を立ててください。
実践	学内で日本語学習者と交流することや、日本語学習の支援に携わることはできますか。	留学生の学習全般を支援する「チューター」、学生生活を支援する「メンター」、国際学生交流会館(学生寮)での暮らしを支援する「レジデント・アシスタント」といった制度がありますので、是非応募してみてください。また、留学生会の支援をすることで日本語学習者と交流をすることができます。いずれも詳細は国際課に確認してください。その他、「日本事情」という科目では、日本人学生と日本語学習者が一緒に履修しますので、授業内で日本語教育の支援をすることができます。

※1 【文部省ガイドライン】日本語教育施設の教員資格について（1988年文部省 基準11教員の資格から）

- 一 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する主専攻（日本語教育科目45単位以上）を修了し、卒業した者
- 二 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する科目を26単位以上修得し、卒業した者
- 三 日本語教育能力検定試験に合格した者
- 四 次のいずれかに該当する者で日本語教育に関し、専門的な知識、能力等を有する者
 - (1) 学士の学位を有する者
 - (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した後、2年以上、学校、専修学校、各種学校等（以下学校等という）において日本語に関する教育又は研究に関する業務に従事した者
 - (3) 専修学校の専門課程を修了した後、学校等において日本語に関する教育又は研究に関する業務に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該教育に従事した期間とを通算して4年以上となる者
 - (4) 高等学校において教諭の経験のある者
- 五 その他これらの者と同等以上の能力があると認められた者

（内規）9 教員の資格

基準11（教員の資格）第四号の「日本語教育に関し、専門的な知識、能力等を有する者」とは、学士の学位を有する者及び高等学校において教諭の経験のある者については、学校、専修学校、各種学校等における日本語に関する教育若しくは研究に関する業務に1年以上従事した者又は420時間以上日本語教育に関する研修を受講した者とする。

日本語の教師としての資格を満たさない者については、収容定員に必要な教員数として認めないものとする。

※2 講座修了者のうち、インテンシブ・コース修了者、教育職員免許状取得者の数は次のとおり。

【2022年度実績】

	英 語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	中国語	朝鮮語	合 計	教職
専 修	-	-	-	-	-	2	2	1
主専攻	-	-	-	-	2	1	3	1
副専攻	-	-	-	2	4	-	6	-

【2021年度実績】

	英 語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	中国語	朝鮮語	合 計	教職
専 修	-	-	1	-	-	-	1	-
主専攻	-	-	-	2	-	-	2	-
副専攻	-	-	2	1	1	1	5	-

【2020年度実績】

	英 語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	中国語	朝鮮語	合 計	教職
専 修	1	-	-	-	-	-	1	3
主専攻	1	-	-	-	-	-	1	2
副専攻	3	-	-	-	1	1	5	3

年度・学科別 修了者数

		2017		2018		2019		2020		2021		2022		合計						
		専修	主専攻	副専攻	専修	主専攻	副専攻	専修	主専攻	副専攻	専修	主専攻	副専攻							
文学部	英語英米文学科	-	1	6	-	-	1	3	2	-	1	3	1	-	1	2	1	23		
	日本語日本文学科	2	4	8	5	3	7	-	7	8	5	9	3	1	4	4	2	4	81	
	コミュニケーション学科	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	3	1	11	
国際交流学部	国際交流学科	1	6	3	-	4	1	-	2	10	-	-	3	-	2	7	-	5	16	60
音楽学部		-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
人文科学研究科	英語英米文学専攻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	日本語日本文学専攻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コミュニケーション学専攻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国際交流研究科	国際交流専攻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
音楽研究科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
科目等履修生		1	1	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	7	
小計		4	12	23	5	8	11	1	13	20	6	7	17	4	3	12	5	12	23	
合計		39		24		34		30		19		40		186						

日本語教育実習 1, 2

1. 履修前提科目

「日本語教育実習1,2」の履修には、履修前提科目があります。詳しくは、「履修前提条件について」(p.66)を参照してください。

2. オリエンテーション、説明会への参加

校外実習（国内外）に関する詳細は、本要覧のほか、4月に実施するオリエンテーション、掲示等により案内します。説明会には必ず出席してください。オリエンテーション時に「日本語教育実習1」履修希望届（p.67）を必ず提出してください。出欠は協定校ごとの実習者を選抜する際、参考とします。

3. 校外実習期間

原則として夏季又は春季休業中とします。

4. 実習校：協定校・外部機関

① 実習先（協定校）は、希望調査を行ったうえで、定員等を勘案して日本語教員養成講座委員会が決定します。確定次第 FerrisPassport、掲示等でお知らせします。

② 協定校が紹介されない場合、またそれを希望しない場合、外部機関（協定関係にない日本語学校など）の実習受入校を各自で申請してください。受入先が適当かどうか日本語教員養成講座委員会が審査します。

5. 校外実習にかかる費用

① 海外実習の場合：渡航費・宿泊費等の諸費用が各自の負担となります。

② 国内実習の場合：交通費・実習謝礼等が各自の負担となります。

6. 「日本語教育実習2」の成績評価

実習報告書が未提出の場合、「日本語教育実習2」の成績評価は不合格となります。

2023年度「日本語教育実習」受入協定校と推薦について

1. 推薦基準

実習受入校への推薦は授業履修態度、書類審査を総合的に判断して行います。必ずしも申込者全員が推薦を受けられるとは限りません。

推薦決定後に授業履修態度等に問題があると判断した場合には、推薦を撤回する場合があります。

2. 実習校

実習校へは、本学の実習基準（合計40時間、費用20,000円、事前見学、教案作成指導、最低1授業コマの教壇実習等）に沿って受入れを依頼しています。ただし、それぞれに独自のカリキュラム・指導方法等があるため、期間や費用は一定ではありません。

3. 実習校決定までのスケジュール

申込受付	2023年4月4日（火）～5月8日（月）
実習校決定	2023年5月下旬

4. 集中講義期間との重なりについて

実習期間が集中講義と重なることがあります。日程を確認のうえ、履修登録すること。

校外実習の注意事項、選抜順位

(1) 基本的な考え方

実習期間は原則として夏季または春季休業中となります。集中講義や就職活動に影響が及ぶため、あらかじめ十分な認識と講座修了証書を取得するという明確な意志を持ったうえで実習に臨むこと。

(2) 協定校への実習参加

毎週の授業「日本語教育実習1,2」は「教師」としての教壇実習を行う（ための）ものであり、普段から欠席・遅刻等が多い場合には、本学協定校への実習参加が認められない場合があります。

また、海外の実習では、事前打ち合わせから模擬授業の準備と観察・反省など、学生グループ単位で自主的に取り組む必要があります。

(3) 優先順位

原則として次のようになりますが、協定校の受け入れ状況や個人票の記述内容等から総合的に判断して原則を適用しない場合もあります（例：書類遅延提出者→他の全員が決定してから審査）。

	夏・海外	夏・国内	冬・海外	冬・国内
3年生	1	2	1	2
4年生	2	1	2	1
院生・科目等履修生	3	3	3	3

2023年度「日本語教育校外実習」希望届

「日本語教育校外実習」希望届は、実習先の後に実習を希望する期間を記入するようにしてください。なお、希望校は必ず第7希望まで記入してください。

提出期限	5月8日（月）
------	---------

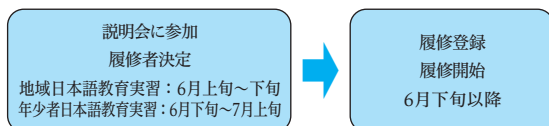
※実習校は4月に掲示します。

地域日本語教育実習、年少者日本語教育実習

2017年度以降入学者は副専攻課程を修了するためには、「地域日本語教育実習」もしくは「年少者日本語教育実習」を1科目以上修得する必要があります。履修方法が他の科目とは異なりますので、以下を確認のうえ手続きをしてください。

なお、2016年度以前入学者も同様の手続き方法となります。

1. 履修までの流れ



※上記の科目は、年度により休講となる場合があります。

日本語教員養成講座への問い合わせ

日本語教員養成講座係：日本語教員養成講座事務室（7号館3階 言語センター内）
講座係は週に3日程度在室します。詳しくは掲示を確認してください。

養成講座にはホームページがあります。活用してください。

■ 大学公式サイト (<https://www.ferris.ac.jp>) > 教育 > 日本語教員養成講座

学生要覧別冊2023 教職課程 日本語教員養成講座

2023年4月1日 発行

発行 フェリス女学院大学
緑国校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3
TEL 045-812-8211(代表)
山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37
TEL 045-681-5150(代表)

印刷 株式会社 野毛印刷社

フェリス女学院大学ホームページ <https://www.ferris.ac.jp/>

